

世界自然遺産白神山地



青森県

西目屋村

にしめやむら



### 西目屋村の概要

約1400人と青森県で最も人口の少ない本村は、津軽地域の西部に位置し、地域の中心都市である弘前市と隣接しています。三方を山に囲まれ総面積の9割以上が林野によって占められています。そして、豊かな津軽平野を潤す岩木川の源流域となっており、現在は東北地方でも有数の大きさを誇る

### 観光の夜明け

「津軽ダム（津軽白神湖）」を建設中であり、今年度の完成に向けて工事が進められています。また、村の南西部には日本で初めて世界自然遺産に登録された白神山地が広がっており、「世界遺産と水源の里」をキャッチフレーズに自然と共生していくむらづくりを進めています。

白神山地の世界自然遺産登録を目指す運動が活発化する前、村を訪れる観光客は年間数万人程度でしたが、その運動がマスメディア等を通して全国から注目を浴びるようになり、そして平成5年の世界自然遺産登録を機に、急に観光客が増え始めました。それに対応するため、温泉付き宿泊施設や物産施設、ビジターセンターといった学習施設などが建設され、積極的に受け入れ態勢を整備してきました。平成8年には白神山地に精通してい

# 世界遺産と水源の里 白神山地×エコツーリズム

世界遺産の径 ブナ林散策道



る村民の方々に協力を仰ぎ「西目屋村観光ガイド会」が設立され、この時初めて村にガイド産業が生まれることとなります。

遺産登録から約10年が経過した頃、多い時は1日に40台もの大型バスが訪れるようになりました。年間の観光客数も60万人を超えるようになり、観光産業も順調な伸びを示していく反面、新たな問題が浮かび上がります。

## エコツーリズム

本村には「世界遺産の径 ブナ林散策道」という散策路があり、数ある白神山地のコースの中でも唯一、遺産地域内に気軽に入れるコースになっています。そのため観光客も多く訪れ、特に夏休みシーズンの8月と紅葉の見頃を迎える10月には集中し、幅狭な散策コースにおける危険度の高まりやブナの根の踏み荒らしによる自然資源への負荷などの懸念が指摘されてきました。また、雪が多く降り積もる冬についてはこれまでほとんど観光サービスは行われてこなかったこともあり、観光利用時期の分散化も一つの課題としてありました。

このような現状から、平成16年度から3年間にわたり環境省の支援を受けて、県境で隣接する秋田県藤里町とともに「白神地区」としてエコツーリズム推進モデル事業に取り組むこととなりました。

しかし、今ではよく耳にするようになった「エコツーリズム」という言葉も、当時は村に全く浸透していない状況から、当事業3年間はあくまでもエコツーリズム推進の本格稼働に向けた準備期間と位置付けて、まずはその基盤を確立することを目的として行うことにしました。村内観光事業者や一次産業団体、交通事業者、ガイド団体、関係行政機関などを構成員として協議会を設立。地域にはどんな資源があり、利用されているのか、または利用されていないのかの現状調査によって、自然資源や人文系資源、年中行事など、数多くのものが掘り起こされました。

また既存のツアーの受け入れ態勢としては、旅行会社などが必要とするガイドの斡旋手配に多くはとどまってきたため、「プログラム」としての提供は限られていました。内容は、山登りや自然散策が大半で、自然と触れるアク

りんご収穫体験



インストラクターによるスノーモービル体験



ティビティや夜のプログラム、歴史伝統文化や農業などの連携した食の体験プログラムなどもわずかしかありませんでした。季節については冬期間はほとんど行われておらず、スノーシュートレッキングなどが一部試行的に始まっている程度でした。

このように、初年度は現状を把握し、2年目は掘り起こした資源をベースにプログラム作りがスタートしました。りんご・そばの収穫体験や山菜採り、マタギのミニ講演、スノーモービ

ル体験、雪中鍋、地元の伝統行事への参加など、これまで受け身だった観光から、こちらから仕掛けていく観光へ徐々に変化していきます。

3年目の最終年度は主にガイドのルールづくりに取り組みました。当時、地域で活動しているガイド団体は村内外合わせて7団体あり、総人数は50人を超えていました。ガイドによって説明や対応が違うという声も寄せられており、ガイドの技術・知識は様々でした。そこで、お客様に遵守してい

考えます。

県をまたいで2町村でスタートしたエコツーリズムへの取り組みですが、現在では青森・秋田両県の8市町村が構成員となる「環白神エコツーリズム推進協議会」として白神山地全体でより広域的に進められています。

### 民間の動き

このようにエコツーリズムの機運も高まり、村内唯一の民間ガイド団体で

ただく事項やガイド自身の留意事項、また別に西目屋村・藤里町の両町村独自のルールをそれぞれ策定し、地域内の共通認識を整理し、それが現在も運用されています。

以上のような取り組みを3カ年にわたって進めてきたことで最も収穫があったのは、地域の横断的なメンバーが一堂に会し議論を重ねたことです。各関係団体の思いを把握・共有したことは、大変貴重な場であったと

ある「白神マタギ舎」は自主的でオリジナリティのある活動が認められ、平成18年度にはエコツーリズム大賞優秀賞(環境賞)、平成25年度には地域づくり総務大臣表彰団体表彰(総務賞)を受賞するほどになっています。

白神山地の伝統的な生活文化とその基盤となる自然を守り、後世に伝えていくことを目的として同社は設立されました。一般の方を対象に白神山地本来の自然を味わっていただく「山歩き」や、マタギ小屋に泊まり、山の生活を体験する「山暮らし体験」を柱としたエコツーガイドを主な活動としており、その特別な取り組みの内容が



マタギ小屋

らファンも多く、県内外からの多数の講演依頼を受けたり、メディアからの注目度も高く、ドキュメンタリー番組に出演したりするなど、村の活性化に大きく寄与しています。

ガイド以外の民間の動きも近年は注目されており、村内の空き家を改修した隠れ家風の喫茶店が話題となっています。特に女性の方々に人気で、落ち着いた店内は癒しの空間となっています。また、大自然を有効活用した八チミツショップも平成25年オープンしました。村で採蜜された無添加の純粋な八チミツを目当てに、多くのお客様が



空き家を改修してオープンした喫茶店 (CAFE Rural)

来店されています。この2つのお店はいずれも村外の方が村に店舗を構えたケースで、近年はこうした地域外からの活力も入ってきました。

また、平成27年には、村内に旅行事業者が設立され、カヌーやラフティング、沢歩きなどの体験プログラムの造成を隣接市町村と企画・実施し、積極的に誘客対策を進めています。

観光に限ったことではありませんが、行政区域の枠を超えて、そして県の枠を超えて広域での動きが活発化してきています。以前から人材不足が課題となっていた村ですが、広域的な取り組みを行い地域外の人材とネットワークを形成することで人材不足解消の一助となっています。

### 今後の取り組み

現在も多くのガイドが村内でも活動していますが、年々高齢化してきており、後継者不足が深刻になっていきます。ガイド業としての主な活動期間は春から秋の半年間に限られるため、ガイド業のみを生業とするガイドはほんの一握りで、冬期間は別の仕事に携わっている方がほとんどです。そのよ

「白神マタギ舎」のかんじきトレッキング



と想っています。村に訪れる方々が白神山地の本当の価値や保全の意義について理解を深められるよう、既存資源の見方を変えて、まだまだ多く眠っているであろう潜在プログラムを模索しながら、観光の質の向上を目指していく必要があります。

うな現状からガイドで生計を立てることは容易なことではありません。しかし、世界自然遺産に登録されてから20年が過ぎ、今後も村の観光産業を持続可能なものとしていくためには、白神

山地の自然や文化を伝承するガイド後継者の発掘・育成は避けては通れない課題となっています。

他には、これまで取り組んできた自然体験プログラムよりもさらに奥に踏み込んだ「白神らしさ」を提供したい

産」も全国各地にあり、決して珍しくはありません。それぞれが特色あるユニークな事業を展開して、誘客促進に取り組んでいます。

西目屋村としても、小さな村であることを利点とし、世界自然遺産の名に相応しい「選ばれる村」を目指して、今後も観光振興を図ってまいりたいと考えています。

西目屋村長 関 和典

(平成26年6月2日付第2881号)

観光振興・体験型ツーリズム・イベント  
(ご当地フェスタ)・環境・遺産(世界・日本)

2015年11月大洗あんこう祭



茨城県

# 大洗町

お お あ ら い ま ち

© GIRLS und PANZER Film Projekt

# アニメ「ガールズ&パンツァー」と大洗町の軌跡 「まちおこしではなく、町全体を舞台としたまち遊び」



## 大洗町の概要

大洗町は、茨城県の太平洋側のほぼ中心にあり、首都東京からは約100kmの距離に位置しています。大洗港は関東地方と北海道とを結ぶ唯一の定期旅客航路であり、「フェリー」さんふらわあーが北海道・苫小牧港との間を運行しています。また、北関東自動車道や常磐道の全線開通により、群馬・栃木・宮城・福島などとタイレクトに結ばれ、茨城空港とあわせニューゲートウェイ

としての発展が期待されています。

穏やかな気候に恵まれた観光・保養の地であり、日本三大民謡のひとつ「磯節」でも謳われる白砂青松の景勝地です。豊かな自然を始め、アクアワールド大洗水族館や大洗のシンボルタワーであるマリントワーなどの近代的な観光施設とレトロな雰囲気が残る商店街がひとつの街に融合しており、老若男女問わず楽しんで頂ける観光地として知られています。

年間約560万人もの観光客数を誇ってきた大洗町ですが、東日本大震災による津波などの実被害に加え、福島第一原子力発電所事故による風評被害などもあり、県内トップから陥落しましたが、わずか1年での奮闘にはこれからご紹介する「ガールズ&パンツァー(以下ガルパン)」が大いに貢献してくれました。

## ガルパンと大洗町の出会い

東日本大震災の影響が色濃く残っていた2011年秋。アニメ製作会社であるバンダイビジュアル様より大洗町

東日本大震災でのフェリーターミナル津波被害状況



を舞台としたアニメを制作させてほしいというお話を頂いたことが、ガルパンに関する取り組みが始まるきっかけでした。

大洗町商工会の一部メンバーが中心となり、制作にあたってのロケハンや様々な企画の調整、関連商品やツアーなど各種企画・運営を行ってきました。もちろん、アニメに関する取り組みなどは初めての経験であったため、不安や葛藤、そして本当に成功するかといった懸念は多々ありました。

しかし、その初めての経験が新鮮さを与え、少人数ではありましたが楽しみながら取り組んできました。

### ガルパンとは・・・

ガルパンことアニメ「ガールズ&パンツァー」は2012年秋に放送されたアニメ番組です。

現代の日本でいう華道や茶道と同じように、戦車を使った武道である「戦車道」を女性のたしなみとして学ぶ高校生達の物語という荒唐無稽な設定ながら、実在した戦車が緻密に表現され、主人公の肉体的な成長や友情、家族との絆を描いており、ファンの間で高い評価を得ています。

主人公たちが学ぶ「大洗女子学園」は架空の高校ですが、作中に描かれている大洗の街並みは忠実に再現されており、そのため現地を訪れた多くのファンは、アニメの中で見た風景が目の前に、現実に広がるという体験をします。逆に茨城県で育った人は、見覚えのある建物が多数登場するため、愛着を感じずにはいられない作品です。

### ターニングポイントとなった あんこう祭

ガルパンがアニメ放送後、すぐに住民に認知され、市民権を得たのか。答えはNOです。なぜならば、TOKYO OMXなどを中心に放送されていた

ため、茨城県では視聴する手段が限られていました。そのため、放送が開始しても、大洗町が舞台になっているアニメが放送されているという認知度は高かったとは言えません。

そこで、ターニングポイントとなったイベントが大洗町の冬の風物詩であるあんこう祭をPRするイベント「大洗あんこう祭」と春に行われている「海祭フェスタ」でした。

大洗町を舞台にしているガルパンのことを、住民を始め、多くの人に知ってもらうことはできないか。ガルパンを見て町に遊びに来てくれるファンに喜んでもらうことができないか。という想いから様々な取り組みが始まりました。

各関係機関の協力により、鉄道車輛やバス車輛、レンタサイクルのラッピングに始まり、ガルパンとコラボしたご当地商品の開発などを、町の一大イベントである2012年のあんこう祭に合わせ準備を進め、イベント当日に一齐にリリースすることでインパクトと話題性を創出しました。

ステージでもガルパンの声優陣を招いてトークショーを開催することができ、結果は前年比2倍の約6万人という過去最高の来場者数を記録。同日にタイヤアップにて車輛のラッピングを行った鹿島臨海鉄道において、2,000名を超える

ファンが大洗駅に押し寄せ、同駅開所以来初となる入場制限がかけられるなど、誰も想像しえなかった結果となりました。

### 商店街にファンが溢れる

大盛況で終わった「大洗あんこう祭」が話題となり、その後も多くのファンの方たちにお越しいただきました。



忠実に再現された大洗の街並み

2012年11月大洗あんこう祭



そして2013年3月に行われた「大洗春まつり海楽フェスタ」。このイベントにおいても様々なタイアップを行いました。

イベント前日には近隣の映画館にご協力いただいたのオールナイト上映会を筆頭に、当日は自衛隊に協力を得て、実物の戦車などの展示やガルパン一色にラッピングされた車(通称：痛車)の展示、声優さんを始めとしたキャスト陣にもお越しいただき、イベントに花を添えて頂きました。

そして同イベントでお披露目となったもう一つの取り組みがキャラクターの等身大パネル。様々なタイアップの中心となっている商工会のメンバーは商店街の皆さんでもあります。

そこで、お越しになって頂いたファンの方々に、どうやって商店街に足を運んでもらえるか考えた結果、ガルパンに登場するキャラクターの等身大パネルを制作し、各店舗に設置をしました。等身大パネルの制作はもちろんです、キャラクターとそれぞれのお店の繋がりを考え、配置店舗などを決めたのも商工会青年部を中心としたメンバーでした。

例えば作中で串カツを食べているキャラクターは精肉店に。紅茶をよく飲んでいるキャラクターはお茶屋さんなど、様々なストーリーが生まれました。そうして商店街にファンの方々



商店街に訪れるガルパンファン

ガルパンキャラ・商店主等身大パネル



が訪れるようになり、商店街の方たちはファンの方たちは大洗町のことを、ファンの方たちは大洗町の人にガルパンのことを教え合うことで、「ガルパン」という共通言語ができ、徐々に町民にも広がり、今ではおじいちゃんやおばあちゃんからも「ガルパン」という言葉を聞くほど、町に馴染んでいます。そうした取り組みの成果もあり、商店街の人々との交流を楽しんでいただけになりました。

### ガルパンファンから大洗町のファンへ

海楽フェスタ以降、様々なメディアに取り上げて頂き、「大洗町IIガルパ

ン」という認知が広がり、週末には商店街に人が溢れる光景が続きました。ガルパン目的で大洗を訪れて頂いた方々は大洗のことをもっと知ってもらうため、主要観光施設などを巡るスタンプラリーを開始しました。その後も様々なスタンプラリーなどを行いました。大きな枠から徐々に小さな枠へ。マスからニッチへシフトしての展開で、町全体から商店街のお店に至るまで多くの方々にお越しいただく機会を創造できました。

そうした中でファンと触れ合い、常連客になり、いつの間にか「あのおじいちゃん、おばあちゃんに会いに大洗へ行く」と人に会いに訪れて頂く方が増えました。商店街の一番の長所は人との触れ合いであると思います。価格や便



町内を観光しながら巡るスタンプラリー

利さでいえば大型ショッピングモールやコンビニエンスストアなどに勝てませんが、「あの人がいるー」あの人の話せば色々教えてくれるなど、お店・人のファンになって頂き、リピーターを生むのが商店街の本来のあり方なのだと思います。

### そして奇跡の展開が続く

そうした取り組みが評価され、平成25年観光庁主催第1回「今しかできない旅がある」若者旅行を応援する取り組み表彰では奨励賞として観光庁長官表彰を受けたのを皮切りに、地域の一体感が評価された「いばらきイメーჯアップ大賞」や経済産業省「がんばる商店街30選」にも大洗町商店街として選定されるなど、誰も想定しえなかった評価を得ることが出来ました。

アニメ放映から3年以上たった今でも、様々な取り組みが続ぎ、大洗あんこう祭では3年連続で約10万人、また海楽フェスタや商工感謝祭では約5万人という多くのお客様に来場いただいております。

### 大洗流のおもてなしとまち遊びは続く

経済効果はどのくらいですか。よく聞かれる質問ですが、ガルパンに関わる取り組みではあえて経済効果を算出していません。多くの方に来ていただ

き「商売繁盛させようーまちおこしにアニメを活用しようー」などと思って取り組んでいないからです。

ガルパンに関する取り組みの企画立案グループのメンバーも宿泊施設の方や商店主、行政や観光協会の職員など所属も立場もバラバラです。共通している認識は来ていただいた方々にどうしたら楽しんでもらえるか。楽しんで頂き、また大洗に来たいと思ってもらえるか。そして町全体を使ってどう楽しめるかを常に考えているため、「ま

ちおこし」でなく「まちあそび」をしている感覚です。

商店の方々もファンと一緒に楽しくみながら、ファンの方々と交流しており、「おかえりなさい」、「また遊びに来てね」などの会話がどこからともなく聞こえてくるなど、大洗町ならではの「おもてなし」が受け入れられ、実家のような街と云って頂いています。



観光庁長官表敬訪問

2015年11月より公開されたガルパンの劇場版は半年以上のロングラン上映となつていますが、このムーブメントはいつまで続くかわかりません。当然いつかはガルパン人気が終焉に向かい、今のような賑わいはなくなるのは誰もが感じているはずですが、「ガルパンが私たちに与えてくれたもの」。それは経済効果でもなければ一時の賑わいでもありません。それは訪れた方々の喜びや人と人との交流の大切さ。そして地元の人々の笑顔とやる気なのだと思えます。商売や観光に関



する原点ともいえるお客様にどう喜んでほしい、また来たいと思ってもらえるか。  
この気持ちを忘れずにいれば、ガルパン終了後も、自発的な色々な取り組みが続くことでしょう。ガルパンがもたらしてくれた奇跡と軌跡を忘れずに...

大洗町 商工観光課

(平成27年8月24日付第2930号)

神流マウンテンラン&ウォークの前夜祭



群馬県

# 神流町

か ん な ま ち

# 山間の町にともる自治の灯

## くお互いの顔が見える町だからできることく



### はじめに

水面越しに川魚の鱗まで見透かせる清流、神流川がとつとつと流れ、有史以前を思わせる荒々しい岩肌が山の木々の間に見え隠れする。群馬県南部に位置する神流町は、平地の少ない山村です。住宅用地と農地には限りがあり、大規模な工場の誘致は困難です。農村と山村はまとめて農山村と呼ば

れ、同一のものであるかのように見なされがちですが、実際には、取り巻く条件は異なっています。

### 神流町の概要と課題

神流町は面積114.60km<sup>2</sup>、人口2,076人(平成28年5月1日現在)の東西に貫流する神流川を挟む山間の町です。平成15年に万場町と中里村が合併して誕生しました。周囲を山々に囲まれた急峻な地形にあり、町域の87%を森林が占めています。そのため限られた平地に集落が点在しており、細く曲がりくねった山道を登った峰近くにも民家があります。また、東は藤岡市、西は上野村と接し、この一円で多野藤岡広域圏が形成され、経済、生活とも密接な関わりを持っています。

現在、町の南西部にある叶山(かのやま)ではコンクリート用の石灰が採掘されています。一時はリーマンショックの影響を受けたものの、今でも町の雇用を支え

神流川で川遊び「神流の涼」



る重要な産業であり、鉱産税が町の財源の一部となっています。  
かつてはこんにやく芋の生産や、庭石に向く岩の産出が盛んな神流町でしたが、こんにやく芋は平地でも容易に生産できるようになり価格が下落、庭

石はバブル以降、次第に需要が低迷し、共に縮小していきました。豊富な山林資源に支えられていた林業も、輸入の自由化により木材価格が下落して以降衰退しています。近年は各産業とも担い手が高齢化していることから、今後の産業維持をどうするかが問われるところです。

町では、若年層が進学や就職に合わせて転出するというケースが多く、子どもとともに家族ごと都市部へ引っ越してしまうことも少なくありません。  
多くの自治体同様、神流町でも人口減少対策と地域活性化が喫緊の課題となっています。

### お互いの顔が見える町

神流町の確定申告事務は町内にある21の地区ごとに受付会場を設け、1地区ずつ回る、というスタイル。役場から離れている地域があり、家族が町外へ勤めているので日中は一人という高齢者が少なくないからです。その甲斐あって、住民税の申告率は毎年100%近くにのぼり

ます。

申告書類を確認する中で、親族の扶養漏れに気がつくことも。なぜなら、職員がある程度住民の家族構成を把握しているからです。だからこそ、扶養漏れ等による過払いを防ぎ、適切な追徴を行うことが可能となります。税制度を公平公正に運用するためには、課税の豊富な知識とノウハウだけでなく、職員の目が地域のすみずみまで行き届いている必要があるといえるでしょう。

また、町には区担当制が設けられており、住民から区を担当する職員へ、行政への相談を持ちかけることもできます。

「身分証明書類を出してもらうけど、知り合い」。928町村の内、人口5千人未満の町村は248町村(平成27年1月1日時点)と、全体の4分の1ほどですが、人口2,000人の神流町は、やはり行政と住民の距離が近く感じられます。職員の多くが町出身者という点もあり、窓口を訪れる住民が知人であることもしばしばです。行政と住民、互いの顔が見えるからこそ、適正に運営できる行政サービスがある

800尾もの鯉のぼりが壮大な「鯉のぼり祭り」



のです。

いかにして住民のニーズをくみ取り、どのような行政サービスを提供するかは、自治体によって様々です。規模の大きい自治体ならではのスケールメリットを生かした施策があるのと同様に、小規模自治体だからこそ実現可能な自治のあり方があるのではないのでしょうか。神流町には、行政と住民、住民同士、お互いに顔が見えるという強みが生きています。

## イベントで魅力発信

「コンビニがあったら便利だろうけど」という言葉をしばしば耳にしました。どこにもあると思われているコンビニエンスストアもファストフードもこの町にはありません。これは住民にとっては決して小さからぬ問題でしょう。しかし、見方を変えれば画一



ヤマメの稚魚を放流

化されていないという点であり、この町にしかないものがある、ということとです。四季ごとに開催される多彩なイベントも神流町独自のものであり、町の魅力が十分に活かされています。5月は神流川の上に800尾もの鯉のぼりが翻る「鯉のぼり祭り」、夏は子どもから大人まで神流川で川遊びを楽しむことができる「神流の涼」、11月の「神流マウンテンラン&ウォーク」には700人あまりの選手が参加し、冬は煌びやかなイルミネーションが神流川を彩ります。

観光拠点の一つ、恐竜センターも、日本で初めて恐竜の足跡化石が発見された神流町ならではの施設です。自然史の学習だけでなく、地表に露出している古い地層で化石発掘体験ができ、年間30,000人を超える来訪者があることから、その人気がうかがえます。現在は新たな取り組みとして、センター内で恐竜フィギュアの製作を行っており、センターのミュージアムショップやオンラインショップで購入することが



福寿草保存会・船「福寿草を守る会」の皆さん

町が企画するイベントのほか、3月下旬には、福寿草保存会・船「福寿草を守る会」主催の「かんなの福寿草まつり」が開催されます。今年も、日当たりの良い山の斜面に綻ぶ、鮮やかな黄色の福寿草を見ようと、近隣住民が連れだって訪れました。遠方から訪れた同好の士との話らいにも熱が入り、甘酒やストープで焼いたあか芋が振舞われます。一段とにぎわいが増していきま

自然を観光資源として消費するばかりではなく、有志のボランティアによる環境保護活動も行われています。溪流魚を保護し、生態系を維持するため、ヤマメの卵を買い入れて孵化させ、5cmほどに育ったところで、神流川と船子川などの支流や沢地へ放流します。その活動をしているヤマメを放す会のメンバーそれぞれが釣り好きですが、釣りの解禁を心待ちにしてきた釣り人が町外からも訪れます。

多くの町村が交流人口増加に向けて力を入れている昨今、神流町が持っている資源にくまなく光を当て、価値を再確認し、活用していくことが活性化のカギだといえます。「通年で人が集まるような取り組みが必要」という宮前鉄十郎町長(取材時・27年3月)の言葉通り、年間を通して様々なイベントが行われています。それらのイベントは、町をとりまく自然環境を生かしたもので、神流町でなくては見られない光景、できない

体験があります。たとえば住民の目線ではありふれたもの、見慣れた景色であっても、それが旅行者にとって町を訪れる動機となりうるのです。

イベントがきっかけとなって交流が始まる一例として、「神流マウンテンラン&ウォーク」があります。多くの選手を迎える神流マウンテンラン&ウォークの際には、住民の協力を仰いで民泊を行っています。当初は宿泊施設の不足を補つために編み出された対応策でしたが、住民宅に宿泊した参加者の評判は上々で、その後も交流が続いています。神流の涼のシーズンには何度も訪れる家族があり、次第に役場職員とも顔見知りになっていくといえます。

毎週末川遊びに来る家族、清々しい空気の中での釣りを楽しみに来る人、道の駅の手打ちそばに舌つづみを打つ夫婦と、神流町のファンは着実に増えています。

## 神流町のこれから

現在は、高齢者が地域を担う中心世代です。高齢者福祉サービスに携わる社会福祉協議会の職員からは、町のお

年寄りは無理をしすぎるくらいだという声がありました。

訪問介護サービス利用者の中には、今も日本舞踊を教えている方がいます。恐竜センターに併設されているはこだたみキャンプ場を管理するのは、70代の管理人4人です。周辺の山間部を熟知している人も健在で、山火事が発生した際など、どのように火が回るおそれがあるか、どの避難ルートが安全か助言をもらうこともあるといいます。様々な場面で、長年培われてきた知識や生活の智慧、熟練の手業が生かされているのです。

他方、役場職員には若い世代が多く、町では緑のふるさと協力隊、地域おこし協力隊を継続的に受け入れていることから、若い隊員も複数います。小中学校の児童・生徒数は合わせて60人程と、決して多くはありませんが、ゼロではない以上、地域の担い手になつてほしいと期待を掛ければ、何倍もの力を発揮してくれるはずです。

高齢化率の高い地域では60歳はまだ若いと言われるますが、高齢者の力を借りながら、次の世代の声を汲み上げて新たなまちづくりへの挑戦を応援し、地域の子どもたちが将来的に町外へ出

ても、いずれリターンしたくなるような町を残していくことが重要なのではないのでしょうか。

## 最後に

「人口1000人になつても維持できる町に」。人口減少に対抗するため、町ではこれまで様々な施策を講じてきました。保育所保育料無料、学童保育無料、小中学校の給食費補助、医療費補助、卒業・入学時の祝い金など、子育て支援策を厚くし、平成27年度からは町外へ通勤・通学する住民に神流町商品券を交付する補助事業も開始しています。町には、子育てしやすい制度を作るとともに、都市部への人口流出による社会減を緩和するという、両輪の対応が求められています。

しかしながら、地方では高齢化のピークが過ぎ、都市部人口の高齢化が進行している段階にあります。現状維持に留まつてしまえば、人口減少は都市部人口の自然減で、さらに進むでしょう。全国的な人口減少に総の自治体が向き合っていかなければなりません。

せんが、ひとつひとつの原因を解きほぐしていくべき問題であり、一朝一夕に解決できるわけではありません。それでも、たとえば人口が1000人になろうと、神流町は住民の暮らしを守るために自治の灯をともし続けるでしょう。

全国町村会 中田 麻依子

(平成27年6月29日付第2924号)



大迫力の恐竜センター

神崎町航空写真



千葉県  
**神 崎 町**  
こ う ざ き ま ち



# 千葉県一人口の少ない町が

## 「発酵の里」でまちおこし

### 神崎町の概要

千葉県内で最も人口が少ない神崎町(平成28年3月末現在…6,291人)は、千葉県の北東部、利根川を挟んで茨城県と接する位置にあり、利根川沿いの平坦で肥沃な土壌を生かした稲作などの農業が基幹産業となっっています。かつて利根川の水運業が盛んだった江戸時代から明治にかけては、米や

大豆などの豊かな農産物を元に酒、みそ、しょうゆ等の醸造業が発達し、多くの店が河岸周辺の街道に軒を連ねて賑わっていました。最盛期には、「関東の灘」と呼ばれていたこともあり、狭い通りに造り酒蔵が7軒、味噌蔵や醤油蔵も軒を並べていました。

その後、鉄道の発達などとともに利根川の水運は廃れて醸造業も衰退してきましたが、現在でも江戸時代から300年以上にわたる醸造を続けている蔵元が2軒あり、発酵文化を今に伝えています。

本町の交通網は、利根川の水運に代わり、鉄道ではJR成田線が、幹線道路では国道356号が、町の東西を結んでおり、このような状況の中、平成26年4月12日に町を南北に貫く首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の茨城県稲敷インターチェンジ〜神崎インターチェンジ間が開通し、翌年6月には成田空港までつながり、交通の利便性が向上したところです。

## 取組の動機

少子高齢化は本町でも進んでおり、人口減や住民の高齢化(平成28年3月31日現在:高齢化率31・1%)などに伴い、町の中心街路においてもシャッターの閉まっている店舗が増えるなど活気がなくなってきました。

そのような中、「仁勇」で知られる鍋店と「五人娘」の寺田本家は老舗の酒蔵として別々に酒蔵まつりを行っていましたが、これを同じ日にできないかという提案が鍋店よりあり、町が間に入り同日開催することになりました。

この酒蔵まつりの準備のため、寺田本家と地元農家の提案で平成20年に「発酵の里協議会」という組織を結成し、酒蔵まつりの開催を契機に、発酵文化をキーワードにした官民一体のま

ちおこしが始まったのです。

千葉県で一番小さな町が元気に楽しくなれるようにと、発酵食品や循環型農法などおいしく健康に良いものをテーマとして、以前から発酵食品の効能に注目していた老舗の酒蔵や、有機農業に取り組みでいた農家が集まって、まちおこしの機運が高まってきました。また、本町としても町のイメージアップと、観光客を呼び込むことによる町の活性化を見込んで、住民側から発案された「発酵の里」づくりに取り組むようになりまし

## 取組の内容

### (1) 発酵の里(こうざき酒蔵まつり)

平成21年から始まり、多くの観光客を呼び込むイベントとなった「酒蔵まつり」は、水稲をはじめとする数多くの農産物と、良質で豊富な水の恵み来源于した酒・みそ等の発酵文化を広くアピールし、町の商工・観光振興を目的に開催しています。2軒の酒蔵の

酒蔵まつりの様子(本部ステージ前)



酒蔵まつり(試飲の様子)



祭りを中心に酒蔵の周辺延長約1kmに及ぶ県道・町道を歩行者天国にして、みそや「ひしほ」(もろみみそ)といった発酵食品や地元農産物などを販売する店舗を設置し地元商店の参加により、河岸周辺の街道にかつての賑わいを呼び戻そうと、町をあげてのお祭りとして賑わいをみせています。

2軒の蔵元(鍋店・寺田本家)ですれまで別々に行っていた日本酒の試飲や蔵見学を中心とした酒蔵まつり(現在も各蔵元において独自の呼称で開催

されている)に神崎町が加わり、「酒蔵まつり」として初めて共同して開催することになりました。個別に開催していたところの人数は合計5千人程度であったため、同数の人数を見込んでいましたが、ふたを開けてみれば2万人の来場。誰もがその相乗効果に目を見張りました。

さらに平成22年には、マスメディアに取り上げられ、JR東日本によって新宿駅から臨時急行も運行されるようになり、前年を大きく上回る3万5千

発酵の里(こうざき酒蔵まつり)2014



人(神崎町の人口の5倍以上)が「酒蔵まつり」に訪れ、当日用意した商品が売り切れる店舗も出るなど、祭りは町の活性化とイメージアップにつながっており、知名度が上がっていること実感できるようになってきました。

近年の全国的な健康志向・自然志向の高まりとともに、発酵食品が見直されてきています。本町でも、このような大きな動向を踏まえ、平成24年1月には、発酵のまちづくりというテーマを掲げ、「全国発酵食品サミット」を開催し「発酵の里(こうざき)」を全国に発信し、さらに平成25年には「発酵の里(こうざき)」の名称を商標登録したところです。

また、町をさらにPRするため、ゆ



ゆるキャラ「なんじゃもんじゃ」

るキャラ制作に取り組み、町のシンボルである国指定天然記念物の「なんじゃもんじゃの木」と「発酵」をモチーフにしたゆるキャラ「なんじゃもんじゃ」を制作し、平成25年の酒蔵まつりでデビューをはたしました。

平成26年の3月16日に開催した5回目の酒蔵まつりは、天候にも恵まれ5万人の来場者があり、発酵食品・オーガニック食品などの出店を含めて約200店舗が出店するまでに成長し、千葉県一小さな町の関東一大きな酒蔵まつりになりました。

### (2) 「発酵の里」を支える人たち

発酵の里を支える人として、地元の農家の存在が大きく、なかでも農薬や化学肥料に頼らない米や大豆を生産し、安全でおいしい農作物を消費者に直接届けようという農家が集まって「発酵の里」を支える活動が行われています。

この団体では、従来から生産者と消費者との信頼関係を築くため、田植えや稲刈り、酒仕込みなどの農業体験ができる交流イベントや、地元でと

れた農作物を地元の小学校給食で食べてもらうなどの食育、首都圏で行われるナチュールマーケットへの出店や講演会などを積極的に行っていきます。そして「発酵の里」としてのまちおこしも積極的に参画し、蔵元に米を提供するなどの材料面だけでなく、自ら栽培している大豆を使用した自家製のみそ造りや菜の花からなたね油の生産も手がけています。

こうした生産者の方々の様々な取り組みもあり、自然豊かな環境に惹かれて、神崎町に移り住んでくる人たちも現れてきています。「農業体験を通じて有機農業に興味を持った県外の若者が、町の古民家を借りて活動に参加するようになった」という新規就農を志す人や、「在来種のおいしい大豆や良質な水があり、発酵の里としてのまちおこしの動きにも共感して出店を決めた」という豆腐店(月のとっこ)、酒粕を使用した酵母パンの店(福ちゃんパン)などの出店もあり、こうした町の外からの人も

「発酵の里」を支えるようになってきています。

「発酵の里」の代表的な食品として酒粕(きり粕)があげられます。従来から神崎町の蔵元では、酒造りに伴って生成される酒粕は、健康食品として大変体に良いことをアピールしていたところであり、人気商品のひとつでした。

### (3) 健康食品としての酒粕

「発酵の里」の代表的な食品として酒粕(きり粕)があげられます。従来から神崎町の蔵元では、酒造りに伴って生成される酒粕は、健康食品として大変体に良いことをアピールしていたところであり、人気商品のひとつでした。



酒蔵見学の様子



道の駅「発酵の里こうざき」

そつしたところ、平成22年11月、全国ネットの情報テレビ番組において、日本の伝統健康食をテーマに発酵食品である酒粕が取り上げられ、更なる注目が集まりました。酒粕は原料となる米に含まれる食物繊維の働きを良くし、悪玉といわれるLDLコレステロール値を下げる効果があり、ビタミンB群やアミノ酸など栄養やうまみの宝庫であることや、健康食品として酒粕をおいしく食べるための調理法が紹介されました。

この番組において神崎町の蔵元が取材を受けたこともあり、放送後、同蔵元はもとより酒粕を扱う業者でも酒粕が売切れとなるなど大きな反響となりました。今後も「無農薬米で、正直に発酵させる、本来の酒粕の力ある商品を作り続ける」(寺田本家)ことで、消費者に良質な酒粕を届けていきたいとついでます。

### 現状と今後の課題

神崎町はメディアにも度々取り上げられ、「発酵の里」として徐々に知名度は上がってきましたが、来客はイベント開催時には見られるものの、常に人

が町に集まり継続した効果を維持できないような環境づくりが課題となっております。

このような状況下で、圏央道神崎IC～大栄JCTの開通により首都圏からの交通アクセス向上が見込まれる中、神崎ICに隣接した地に道の駅を設置する運びとなり、平成27年4月29日にオープンしたこの道の駅は、町と一体となってまちづくりを推進する目的から、町のキャッチフレーズである「発酵の里(こうざき)」と名付けられました。

また、圏央道を利用した交通の利便性や、世界中で最も多くの発酵食品を食文化に持つ日本にあって、「発酵」をテーマとした全国初の道の駅であること等が評価され、国内で1,000以上設置されている道の駅の中で35の重点道の駅に指定されました。

営業が開始され、現在も多くの来場者にお越しいただいており、今後は道の駅を起点とし、町内各所へ誘客を図ることにより、「酒蔵まつり」の賑わいが常時見られるような環境づくりをすすめていく予定です。

神崎町長 石橋 輝一

(平成26年5月26日付第2880号)

海と山と文化のまち「大磯」



神奈川県

# 大磯町

お お い そ ま ち

N  
4+



大磯町

## 保養地として栄えた大磯町

大磯町は、相模湾や高麗山、鷹取山などの豊かな自然が暮らしの場に近接しており、また、長い時間をかけて郷土が培ってきた伝統や文化が大切に受け継がれることによって、自然的、歴史的、文化的に魅力のある町として発展してきました。明治18（1885）年には、初代・陸軍軍医総監、松本順が医学的見地から「海水浴」を推奨し、

# 大磯町を楽しもう！

## 「観光を通じた持続可能な『まちづくり』」

照ヶ崎海岸に海水浴場が開設されました。明治20（1887）年には、大磯駅開業によって多くの海水浴客で賑わいました。

また伊藤博文初代総理大臣など時の政財界の重鎮たちの別荘が数多く建築され、保養地としての大磯の名が全国に広まりました。

## 過去の町になってしまっ！

かつて保養地として栄えた大磯も今は昔。別荘は次々に売却され、海水浴客もピーク時の7分の1にまで減少しています。高齢化も確実に進んでおり、商店は減り続けています。大磯で新たにチャレンジする若者も多くありません。大磯は市場として魅力の低い地域になってしまいました。

圏央道、さがみ縦貫道が開通し、国道134号線が4車線化したことで、首都圏等からのアクセスが非常に便利になりました。しかし、手をこまねいているだけでは、箱根・伊豆方面に行



「禰龍館(とうりゅうかん)」(明治中期の海水浴場の様子)

による「大磯町新たな観光の核づくり推進協議会」を立ち上げ、大磯町に人を呼び込む観光施策に取り組み始めました。

### 大磯町の観光とは？

しかし、いざ取り組みを始めると、大磯町はもともと観光地ではないので、観光客が大挙して訪れる観光スポットがある訳でもなく、そもそも自然が多い環境で「静かな暮らし」を気に入っている住民が多く、「大磯町は観光に力を入れると言っているが、京

くのが非常に便利になるだけで、大磯町は単に通過をされるだけの町になってしまう。このまま大磯を過去の町にしてしまってはいけない、もう一度魅力を創造しよう！という決意のもと、県内に横浜・鎌倉・箱根に続く観光エリアを作ろう！という神奈川県「新たな観光の核づくり」事業に手上げをし、認定を受けました。そこで、大磯町・観光協会・商工会を事務局として、関係19団体(現在では22団体)



旧別荘群の小路

都や鎌倉のような街を本当に目指していくのか」といった声が多く聞かれるようになり、「大磯町が目指すべき観光とは何なのか」を大磯町新たな観光の核づくり推進協議会に関わる全団体が真剣に考え始め、大磯町が持っている地域資源を見つめ直すところから始めました。

### 大磯町が持っている地域素材

観光を通じたまちづくりを進めるにあたって、大磯町が持っている地域素材を改めて見直すと、次の4つに集約されました。

まず1点目は、海・山、そして新鮮な食材など、地に足着いた暮らしが「ローカルライフ」を得られる「豊かな自然環境」があること。2点目は、「歴史・文化の醸成」があり、特に明治以降の別荘文化が、独特の瀟洒(しょうしゃ)感を醸し出していること。3点目は、県内の近隣地域と比べ、それほど都市化されていないので、それが逆に人との繋がりを保ち、多くの「コミュニティ」を作りあげていること。そして最後に、大型資本や娯楽施設が無いので、「静かな住環境」が守られていること。

これらの地域素材を踏まえれば、大

大磯迎賓館



磯町は不特定多数の観光客をわやみに受け入れて、単にお金を落としてもらえば良いという従来の観光の形は、合わないことが分かってきました。

### 大磯町が目指す観光

従来の観光は、例えば、100万人の観光客が1年に1回訪れ、大勢の通過する消費者によって、大量のお金はその地域に落とされていくようなイメージですが、大磯町が目指すようにしている観光は、例えば1万人が年に100回訪れるような、少数でも参画する来訪者を選んでもらえるような地

域を目指すことだと考えます。そのよ  
うな観光とは、来訪者がただ単にその  
地域のモノやサービスにお金を落とし  
ていくだけの「過性」のものではなく、  
来訪者が何度も訪れ、地域と関わって  
いく中で、その地域の経済・社会・文  
化・自然といった総合的な地域活性化  
に繋がっていくものだと考えます。大



僕らの酒(農・自然の共生)

磯町の「日常の暮らし」に触れ、新た  
な出会いを生み出し、「町民のより豊  
かな暮らし」を実現していくような観  
光が、大磯町が目指すものです。邸園  
文化や恵まれた自然等「大磯独特の地  
域資源」を「地域住民自らが見直し、  
ここに住む『豊かさ』を再認識しなが  
ら、大磯町を楽しむことから始め、そ  
の暮らしの『豊かさ』を町外の人々と  
分かち合いながら、観光・交流促進を  
進め、大磯町のファンを増やしてい  
くことが、大磯の観光に携わる人々の出  
した結論でした。

### 大磯町の暮らしの豊かさ とは？

「暮らしがりに」にふれる観光を目指  
すことに決めましたが、大磯の「暮ら  
しがり」が「豊かで魅力的」でない  
大磯に人を呼び込むことは出来ませ  
ん。そこで、『豊かな暮らし』を示  
すものとして大磯の魅力を9つに絞  
り、暮らしがりに求める方向性を打ち  
出しました。

その9つの魅力とは、

- ①ローカルファースト(地域を第一に  
考え、地域の資源を大切にし、使用し  
ていこう！)
- ②インディペンデント(個人が作るも  
のを大切にし、『地域のヒト』を育てて

大磯市(芝生広場)



いこう！)

- ③手作り(手作りで、品質の良いもの  
を大切にし、『地域のモノ』を育ててい  
こう！)
- ④地産地消(商)(地域の資源を使った  
ものを消費して、『地域のお金』を育て  
ていこう！)

- ⑤ウォーカブル(地域のヒト、モノ、  
お金を育て、地域に根ざした個性豊か  
な『お店』があふれる『歩いて楽しい  
大磯町』を作っていこう！)

- ⑥農漁・自然との共生(海と山、大磯  
の豊かな自然を大切に守り、使いなが  
ら、『豊かな産物を享受しよう！)

- ⑦クリエイティブ(地域の産物や風景  
資源を見直し、次の新しい価値観を見  
せ、創り出し、大磯の暮らしを楽しん  
しよう！)

- ⑧コミュニティ(みんなの思いや考え  
を出し合える『ともに楽しむ場』を作  
り、地域の人とつながろう！)

- ⑨文化の継承(長い時間をかけて受け  
継がれてきた、今の暮らしに繋がる  
「自然的」「歴史的」に魅力のある「大  
磯の文化」を大切にし、楽しみ、次の  
世代に継承していこう！)

これら9つの魅力に基づいた「大磯  
の豊かな暮らし」にふれられる事業を  
創出し、その「豊かさ」にふれた暮らし  
を享受できることをPRしていき、大  
磯町のファンを増やしていくことに注  
力していくことが、「大磯の観光まち  
づくり」です。

### 大磯町の9つの魅力を体 言している大磯市(おお いそいち)

「ローカルファースト」「インディ  
ペンデント」「手作り」を「コンセプ  
トにまち全体を市(いち)に！」

毎月第3日曜日に大磯港で開催して  
いる大磯市は、従前から行われている  
漁協主催の魚の「朝市」と合わせ、飲

食や雑貨等の多様なお店が軒を並べる人気のある市です。今では170店舗ほどのお店が出店し、毎回3,000〜5,000人の来場者を集めています。神奈川県下でも最大級の朝市へと成長しました。

大磯市では3つの選考基準を設けています。1つ目は「ローカルファースト」、2つ目は「インディペンデント」、そして3つ目は「手作り」です。広く事業を行っている大手の出店はお断り

し、湘南・西湘地域の個人を対象とする。また地域の人が地域のものを使っていることを条件にし、大量生産品ではなくて手づくりされたものに限定することになっています。

毎月行われるため趣向をこらしたオリジナル商品の開発にも結びつき、「ここでしか買えない商品」が開発されるようになる事例が多く生まれてきました。また出店者同士の結びつきも強く、「コラボ商品も多数生まれていきます。それにより大磯市でしか買えない数多くのものが生まれて出され、それが大磯市の一つの大きな特徴となりました。

### 地域で育つ次世代の芽

大磯市に出店することで認知度が増し、商品取り扱いショップが増えたり、予約が殺到している事例も出ています。

「今までアルバイトをしながらの生活だったけれども、大磯市に出ることによって販路が増え、お客様からの直接の注文が増えた。アルバイトをやめ、作家一本で生計を立てることが出来るようになった。お客様の9割は大磯市です」という作家、毎回大

行列を作りオープン時にはパンが売り切れている無店舗パン屋さんも出てきました。うれしいことに大磯市で確実に次世代の芽が育ちつつあります。

### 自立したローカル経済圏を

これまで大磯市はイベントとして順調な発展を続け、町の賑わいの一助になってきています。しかし、今のこの現状が完成形ではありません。

「大磯市」の目指すところは「美しい街」「住みたい街」「出掛けたい街」の創出であり、大磯町でチャレンジしたいという若い人たちを呼び込む ↓大磯でお店をもっともらう ↓お店が増える事でまちに回遊性が生まれる ↓町内外からお客さんが増える ↓歩いて暮らせる、ウォーカブルで快適なまちになる ↓大磯に住みたい人が増える。

大磯市がこんな好循環を作り出すためのエンジンになって欲しいと考えています。出店者同士、出店者とお客様、お客様同士が繋がり、「コミュニケーションの場にもなっている大磯市では、ものを売るだけではなく、人と人が繋がり、新商品など新たな面白いモノやコトが継続的に生まれる土壌があり、それが次の農作物や食品、そしてクラフトなどの作品を生み出すことに繋がり、ひいては人と大磯の自然や文化との繋がりを再構築することに繋

大勢の来場者でにぎわう大磯市



がり、地域の総合的な活性化に繋がっていきます。

地域自給が成り立つように「自立したローカル経済圏を形成」しながら、若い世代が地域で活躍できる場を創造し、大磯を楽しみながら、持続可能なまちづくりを進めていきたいと考えています。

大磯町産業環境部産業観光課  
(平成27年10月26日付第2038号)

大磯市の出店



観光振興・体験型ツーリズム・イベント  
(ご当地フェスタ)・環境・遺産(世界・日本)

いびがわマラソンのまち「全国ランニング100撰18年連続選出(最多)」



岐阜県

# 揖斐川町



## 揖斐川町の概要

揖斐川町は、岐阜県の最西部に位置し、北は福井県、西は滋賀県に接しています。面積は803.44km<sup>2</sup>で、東西方向約20km、南北方向約35km、南北に長い形をしています。総面積のうち、森林が91.1%を占め、標高1,100〜1,300m前後の山々がそびえ、山間を縫うように揖斐川やその支流、根尾川、粕川などが流れています。平坦部の夏は高温多湿ですが、山間部の

冬は厳しく、積雪量が1mを超える地域もあります。

町の中央を流れる揖斐川は、福井県との県境に位置する冠山に源を発し、山間渓谷を貫き、肥沃な濃尾平野を流れ、伊勢湾に注ぎます。この地に住む人は昔から川の恵みを受容し、時には水害に苦しめられ、川とともに暮らしてきました。この揖斐川をせき止めて建設されたのが、日本一の総貯水容量を誇る徳山ダムです。その貯水量は浜名湖の約2倍の6億6,000万m<sup>3</sup>で、ダム堤頂の長さは新幹線「のぞみ号」の16車両(400m)を超える427mあり、新たな観光光源としても注目されています。

また、谷汲山華厳寺は「谷汲さん」の愛称で親しまれ、「西国三十三カ所巡礼」の第三十三番札所で結願の寺として多くの参拝客が訪れます。そして、最近注目をあびるスポットとして、さざれ石公園があります。「君が代」に詠まれるさざれ石が奉られ、国歌発祥の地としても名高く、パワースポットとしても人気を得ています。

揖斐川町は平成の合併時に近隣の一町五村が合併し、新揖斐川町が誕生、平成27年には「合併十周年」を迎えました。

マラソンからはじまった地域づくり  
2015大会は、ネットエントリーが22分で締切りに！

## いびがわマラソンの はじまりと歴史

バブル景気に沸いていた昭和の終わり頃、全国各地で地域おこしのイベントが盛んに生まれていきました。「揖斐川で何かをしたい」「揖斐の名前を広めたい」「町を元気にしたい」という町の思惑にぴったりだったのが、マラソン大会でした。

陸連の公認コースを得るために、50mのワイヤーメジャーを使って、全コースを歩いて計測するという地道な作業が続きました。今ほどマラソンがメジャーでなかったこともあり、準備を進めながらも不安が募りました。高



立派な架け橋で、なんとか大会が開催できる

低差127mという厳しいコースに、「ランナーは集まるのか?」「給水は?」「スポンサーは?」手さぐりで準備を進め、1988年11月、3、392名のランナーと800名のボランティアが集まり、東海地区最大のフルマラソン大会の幕が開きました。今では名前を知られる大会になった「いびがわマラソン」も、これまでの道のりは平坦ではありませんでした。歴史を振り返りながらご紹介いたします。

いびがわマラソンの魅力は、美しい自然の中を駆け抜けるという点ですが、その反面、自然災害とも隣合わせです。第2回大会では大会2カ月前に大雨で道が抜け落ちて、コースが寸断されました。中止が検討される中、地元の方が、なんとかランナーを迎えたいと仮設の橋を架けたのです。命がけの突貫工事だったことでしょうか。パトカーで仮設の橋を渡ってもらい、警察から許可を得ました。

マラソンは屋外での競技のため、天候にも左右されます。第3回大会は雷に大雨でコースはぐちゃぐちゃになりました。ランナーはもちろん、1、000名のボランティアもみなびしょぬれで寒さに震えました。27回の大会開催の内、雨の大会は7回でした。ランナーにとっては自然の厳しさを味わったり、ボランティアの皆さんへの感謝の気持ちが深まったりと、とりわけ第3回大会はいつまでも心に残る大会になりました。



ランナーのエントリー数は、時代背景とも重なります。10回(1997年)大会まではランニングブームもありどんどん増えていき、9、000人を超えました。しかしその後、景気の下降とともに毎年1割以上ランナーが減り続け、18回(2005年)大会には5、500人となりました。当時はランナー数の減少で、全国の多くの主催者が大会を打ち切るようになってきました。そんな厳しい状況の中、事務局では「いびがわ」は何がダメで何が足りないのかを探るため、ランナーに人気のある大会に出向き見て歩きました。ランナーに人気の大会は、県や大きな都市が主催となり、メイン会場はドームや陸上競技場、そしてコースは広い道路を使っている、ため息がでるほど立派でした。しかしいなと思

う半面、「いびがわ」も運営面やサービス面では負けていないのでは…と気づき始めました。視察に行けば行くほど、自分たちの町にしかない良さを一つずつ噛みしめることが出来たのです。「美しい自然と温かい心」、これが「いびがわ」らしさだと実感しました。また、ランナーの皆さんと直接話をする中で「ランナーの気持ちになる」という根っここの部分にたどりつきました。この2つに気づくことが出来た私たちはやるべきことが明確になり、次の一歩が踏み出せたのです。

## いびがわマラソンは「何を求めて」

### ① 地域資源を活かして

「民泊や地区公民館でもおとなじ」  
宿泊所が少ないので民泊の輪を広め、全国のランナーを迎え入れよう。地域の公民館を解放しよう。大会当日の朝は地域のお母さんらが、完走祈おにぎりを作ってランナーを送り出します。

### ② 「4つのお楽しみバス」

大会当日、ランナーだけでなく、大勢の皆さんに揖斐川町を満喫してほしい。応援にきた家族や仲間も楽しんでほしいという思いから、会場から町の観光名所へ無料バスを運行。また、ランナーを直接応援したいとの声から、フルマラソンの中間地点へ応援バスを5台運行しました。山の中を走るランナーは苦しい場所でも大きな声援をつけ、後半も頑張ると人気です。



あったかいみぞスープは、体も心も温まります！

走っている時のランナーは、自身との戦いでとっても孤独です。だからこそ、沿道の応援が身に沁みます。いびがわ大応援団を募集。よきこい踊り・

### 「町ぐるみ」をあげようの応援

走っている時のランナーは、自身との戦いでとっても孤独です。だからこそ、沿道の応援が身に沁みます。いびがわ大応援団を募集。よきこい踊り・

### 「金」コーチのマラソン教室

初心者の方でもいびがわマラソンに参加できるよう応援し、マラソンの輪を広げてほしいという思いから、全5回の教室を開催。4つのレベル別に市民マラソンの名「コーチ金哲彦さん」にプロデュースをお願いしました。100名限定の教室は、申込み開始直後に定員に達するほど人気です。

### 「お茶目大賞」

仮装して走りたいという声から、お茶目大賞と題してランナーを募集。自分が楽しむだけでなく、沿道で応援する人を楽しませた方を表彰します。毎年、大勢の方が参加し、子どもたちや地域の方の応援する楽しみにもなっています。

### 「選べる記念品」

参加賞は決まったものという概念を取り払い、Tシャツ・ラングッツ・特産品から選ぶことができます。このほかにも、記念品なしで500円引きというサービスも用意しました。

ランナーの思いに立つた企画を進めるとともに、運営側の気持ちも一つにしたいと願いました。第19回(2006年)大会からは、大会長である町長が「おもてなしの心で」という言葉を随所に用いて、親戚の人を迎え入れるような思いで、全国の人をお迎えしようと呼びかけました。大会を支えるボランティア1,800名に声をかけ、大会一週間前に一堂に会する場を設けています。その年の新しい企画の紹介、安全対策、運営面をお願いなど、大会当日誰もが気持ちよく参加できるための大切な打ちあわせに加え、もてなす側の気持ちを一つにするねらいがこめられています。心を一つに、町を

### ③町をひとつに

ランナーの思いに立つた企画を進めるとともに、運営側の気持ちも一つにしたいと願いました。第19回(2006年)大会からは、大会長である町長が「おもてなしの心で」という言葉を随所に用いて、親戚の人を迎え入れるような思いで、全国の人をお迎えしようと呼びかけました。大会を支えるボランティア1,800名に声をかけ、大会一週間前に一堂に会する場を設けています。その年の新しい企画の紹介、安全対策、運営面をお願いなど、大会当日誰もが気持ちよく参加できるための大切な打ちあわせに加え、もてなす側の気持ちを一つにするねらいがこめられています。心を一つに、町を



ハイタッチは、いびがわの名物に

## マラソンが生み出す効果

一つにする大切な時間です。

### 「子どもたちの郷土愛を育て」

いびがわマラソンは、子どもたちにとっても年に一度の大切な日です。いびがわマラソンを通じて、町の一員として全国のランナーをもてなし、大会をささえ、創り上げていきます。子どもたちは、事前にマラソンの歴史やランナーの思いを学んだり、ボランティアとして活躍する人の声を聞いたりして大会を迎えます。

そして、一人ひとりが精一杯ランナーをもてなします。大会後にはランナーから寄せられる声を受け、ランナーへお手紙や絵を寄せます。その手紙や絵は、完走証とともにランナーへ届けます。心と心のキャッチボールと題したこの企画は、マラソンを通じて子どもとランナーの繋がりを深めていきます。マラソンを自分たちの宝物、町の自慢として誇らしげに話してもらいたいと願っています。

### 「道徳の副読本」

平成24年春、東京の出版社発行の「道徳の副読本」で、いびがわマラソンの話が8ページにわたり掲載されました。

内容は、いびがわマラソン事務局に職場体験にやってきた子どもたちが、町の人々がみんな、作りあげていることを知り、大会に誇りを感じ「町の宝

物」に気付くというものです。これは実際の話で、いびがわの宝物をこれから引き継いでほしいものです。

### 「恋もマラソンもゴールをめざせー」ラン婚

全国から大勢のランナーが集まるマラソンと町の婚活事業がコラボした企画が「ランニング&婚活」、ラン婚です。全7回にわたるラン婚は、毎回金コーチのマラソン教室と同時開催し、トレーニングを終えた後に対象者が残り、婚活事業が催されます。参加者は、マラソンでゴールをめざすという同じ目標に向かうこともあり、話も進み距離も縮まっています。今年で3年目を迎えますが成果も上々で、毎回抽選になるほどの人気を得ています。

### 「揖斐川町を応援、ふるさと納税」

マラソンがもたらした新たな効果として、ふるさと納税による町への寄附金があります。町の一番の自慢を体感してもらいたいと十万円を寄附された方に出走権をお渡ししています。想定より大勢の方にお申込みをいただき、感謝しています。

### 「第2回大会から、アメリカ」

第2回大会から、アメリカ

カウタ州、セントジョージマラソンと交流をしています。それぞれの優秀選手を招待すると共に、毎年、中学生が派遣団を結成し、現地をおとすれ、両国の文化や風土について理解し合い、国際感覚をみがいています。

### これからの地域づくり

マラソンは、岐阜の小さな町にひとつのきっかけを作りました。それは、「いびがわ」という名前を全国に発信したこと、そして町の人が自分たちの町の自慢をみつけたことです。そし

て、その一歩は、地域資源を活かして、名物を作り、観光地へ人を運び、婚活やふるさと納税で、他の土地から揖斐川町への人の動きを生みだしました。揖斐川町は、高齢化率34・5%、子ども数も減っています。また、山間部を中心に深刻な過疎化も進んでおり、多くの課題も抱えています。

年に一度のマラソンを活かして、全国のランナーとの繋がりを深め、元気で温かい揖斐川町を第2の故郷と思ってもらえるよう、次の2歩3歩を踏み出していきます。おもてなしのノウハウや、町がひとつになる一体感を知っ

ている町の人だからこそ、できることは広がっています。町の中でふつふつと湧いてきている動きを広げていきたいものです。過疎化で人は減っていますが、町を元気にしたいと思っける人をどんどん増やし、いわゆる活動人口をふやして生きがいのある地域づくりを進めていきます。

揖斐川町教育委員会  
スポーツ振興課  
(平成27年10月5日付第2935号)

冊子には、子どもの声がのこっています

小中学生から届いた手紙や絵は、1,347件ありました♪

道徳の本に掲載「ぼくらの町のマラソン大会」

下北山スポーツ公園

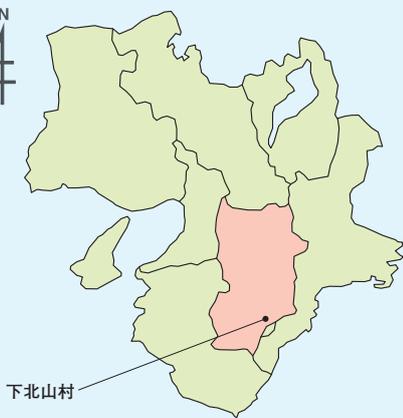


奈良県

# 下北山村

しもきたやまむら

N  
4  
↑



下北山村

## 下北山村の概要

下北山村は、近畿の屋根と言われている大峯山系「大台ヶ原山」の南麓に位置する小さな山村です。

この周辺一帯は日本でも最多雨地帯として知られており、年間総雨量は2500ミリから多い年には4500ミリを超えることもあります。

昭和30年代には、この豊かな水源を利用すべく北山川本流には電源開発のためのダムや、52万kWhを超える規模の

# 再生可能エネルギーの導入と利活用

## 自家用水力発電への取り組み「小又川発電所」

発電所が次々と建設され、関西を中心とする都市部の高度経済成長に大きく貢献してきました。しかし、池原ダムだけでも880ヘクタール余りの土地や集落を水没させた代償は地域にとつて大きいものがあり、エネルギーの地元利用という面でも地域への貢献は少なく、これら一連の事業により山村は大きく変貌してしまつたのです。

このような中、奈良県の山村に残された未利用水資源を活用して発電所を建設し、そのエネルギーを地元で利用して地域活性化のための事業が出来るか、と、「奈良県小水力発電開発研究会」が発足したのは、いまから30年前の1984年7月のことです。

## ローカルエネルギー利用と林業活性化への期待

奈良県及び県森林組合連合会、県下の七つの村と森林組合がこれに加わり、一箇所(後に三箇所)で河川流量データを得るための測水が始まりました。そのうちの二箇所が小又川発電所(下北山村)です。

この計画に森林組合関係団体が加わったのは、長引く林業不況の中で、

必要な森林の手入れに資金を投じる森林所有者が減ってきたことから、この事業で収益が上がったらずべて山に投資する、つまり遅れがちな森林の手入れに発電による収益金をつぎ込んで森を育て水源涵養を図る、そこで生み出された水を利用して発電する。という循環システムが可能になるのではないかと、言う林業活性化への期待があったからなのです。

発電に関しては素人集団であり、当初はコンサルタントを頼りながら発電に関する知識の取得を中心に活動していましたが、中国地方の小水力発電所の視察などを重ねたりするうちに、徐々にこれは事業として成立するのではないかと思われてきました。

中国地方では、戦後10年〜15年位の間に建設された小さな流れ込み式の発電所が運転され、地元電力会社の配電線に接続して売電されていたのです。

これならば、奈良県でも可能ではないか、開発地点は沢山あるぞという思いが湧いてきました。

この時点では、その後下北山村が建設を開始することになった小又川発電所の、水利権を始めとする「許認可事務」や電力会社との「売電交渉」の難しさ、また完成までに9年余の歳月がかかることは理解できていなかったと言えます。

## 取り組みの内容

### ☆売電交渉始まる

奈良県小水力発電開発研究会が発定した年の12月、関西電力との間に第1回目の売電交渉が始まりました。小水力発電に限らず発電事業は、発生した電力を蓄えられないので、すべて自家消費するか、電力会社に全部買ってもらうか、或いは自家消費したうえで残りの余剰電力を買ってもらうことが前提になります。

下北山村の場合、電源開発株の池原ダム建設時に下流に廃河川敷が残置として残りました。これを整備して作った「下北山スポーツ公園」があり、この公園施設に自家供給・自家消費をし、余剰電力を関西電力に売電する方向で話し合いに入りました。

売ろうとする方も、また、このような話を持ちかけられた電力会社も初めてのことで、お互い手探りの状態が続くこととなりました。

何よりも技術的に大丈夫なのか、本当に発電所を作る気があるかという心配が電力会社にはあり、小さな発電量のためスケールメリットも無いという状況のもとでは、「出来れば計画を断念してほしい」と言つのが偽らざる心境であったでしょう。

この後、十数回におよぶ交渉や検討会でいろいろな買電のための条件を提

示してきました。

主な条件とは、電気の質を落とさないこと、配電線のつなぎ込みに要する費用の全額負担、安全確保のための設備増設、売電単価の上限設定などです。

これには、発電機の機種変更、費用の負担承諾、補助金導入などで条件をクリアすることとして交渉を進める一方、この間に、建設省・通産省等に事業認可、農林水産省に補助対象事業としての認定についての陳情を始めました。

そして、87年ある程度の具体的計画が煮詰まったのを待つて、いよいよ水利権などの事前協議に入りました。

☆水利権の壁  
発電出力の計算のためには、10ヶ年間の流量測定データが必要とされています。

ただし、近隣の測水所の過去の測水記録があれば実測データとの相関関係で補うことが可

能です。このため、電源開発株式会社  
の流量資料の提供を受けて取水量や発電出力を検討しました。

一方、発生した電力を自家消費して有効に活用するためにも、また余剰売電の承諾を得やすくするために、売電単価を低く押さえることが必要となり、経費をかけないで施設を完成させられないかという検討が大切です。



発電所全景と放水口

鳥取県、広島県等の小水力発電所では、既設の堰堤を利用して取水、既設の農業用水路で導水して流れ込み式の発電をしておりました。小又川発電所計画地点はこの条件にも当てはまっておりました。

上流に砂防ダム及び副堰堤があり、この副堰堤を利用しての取水が容易と思われたのです。また、この谷には、取水予定地点から放水予定地点までの間に二つの滝があり落差が稼げること、他に水利の利用者が無いこと、取水地点も放水地点も同じ溪流であり、環境への影響も少ないことなどいくつかの条件がそろっていました。

しかし、関係機関との協議や打ち合わせが進むにつれて、これは容易ならざる事業である、と認識せざるを得なくなってきました。

建設省(現、国土交通省)に副堰堤からの取水を申請するためには、出先機関の近畿地方建設局(当時)以後「近畿地建」という、に事前協議を行います。当時はこの程度の規模の計画ならば、近畿地建での技術審査により容易に国への許可申請が進むだろう、というようなお話があったと記憶しています。

ところが、これは希望的観測にすぎませんでした。近畿地建の出先機関の工事事務所を経由して提出した計画図書は、近畿地建各課でさまざまな角度から検討が加えられて完成します。こ

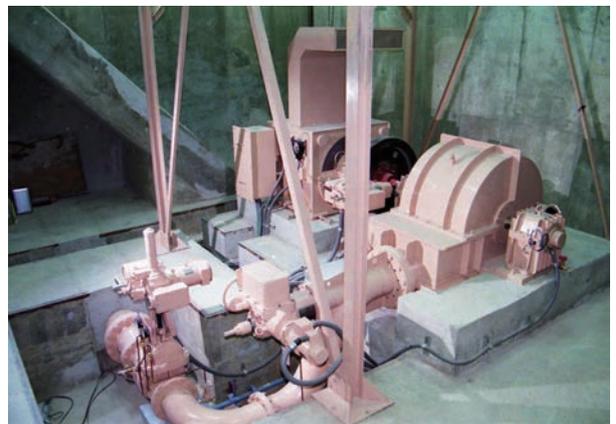
の書類や図面が国(建設省)に送られて、その後書類手続きだけですぐに許可が出るのかと思いきや、砂防施設の利用や取水施設の安定計算については、本省河川部砂防課が、維持流量の検討・水利権の申請については水政課が、などとそれぞれ専門部署にわたって詳しく内容を検討してくれるのです。

そして小さな河川(谷)であっても一級河川に指定のうえで水利権を申請することになり、この河川指定の申請書類づくりに数ヶ月と、あつと言つ間に一年が経ってしまいます。また、技術的には本省砂防課の指示で「財」砂防地すべり技術センター」の審査が条件となり現地調査や検討結果の報告云など業務が加わり何度も上京しました。

そして技術センターの検討結果をもとに、「小又川砂防ダム利用審査会」が都内で開かれ、そこで技術的及び管理上砂防ダムの利用に支障なしと認められ、やれやれと思いきや、6ヶ月ほど後になって、取水堤の安定計算については、砂防堰堤に求められる技術によるのではなく、河川構造物としての堰堤として必要な安全性を確保するため、再度計算をし直すこと。そのためには、更に地質調査(ボーリング)を行うようにという指示が出てくるのです。

その結果、この新たなコンサルタント

発電機



トへの業務の委託、成果品の河川構造物としての堰堤の規模に驚き、それを基にまた土木工事費用の再積算が始まります。この間、また6ヶ月くらいかかります。同じ建設省河川局の中でワinstopp窓口はありません。

小又川発電所は当初、豊水時の水量を見込んだ最高時には400kWくらいの発電ができる設備が検討されましたが、補助金の関係、水量の安定性、自家消費電力量とのバランスなどを検討した結果98kWの規模と決定しました。電力会社から見れば、オモチャと感じられたことでしょう。

また、当時は100kWを超える発電所になると、更に電源開発調整審議会

(電調審)にかけなければならぬということでした。これ以上いろいろな手続きが重なり計画が遅れることになると、事業を進める事に村議会が疑問を感じ中には撤退を提案されるということになりかねません。そうなることれまでに投資した調整費や交渉などに要した費用、あるいは情報・知識までが無駄になってしまっただけでなく、今後このような、モデル的事业を立ち上げる意欲まで失いかねません。このような、実情を踏まえて98kWの出力で行こうと決まりました。

2013年には国土交通省も最大1000kW未満の小水力発電については許可手続きの簡素化、円滑化を進める方針となり水利利用の許可権限が知事に移譲されましたが、当時の感想としては、小さな発電所にもかかわらず、土木施設も発電関係施設も、立派な物が完成しましたが、我国では、100kW未満の発電所も30万kWクラスの発電も殆ど同じような手続きを必要とするのではないか、という感想を強く持ちました。

ともかく、大変な条件をクリアし奈良県の強力なバックアップ、多くの方々の力をいただいたお陰で、小又川発電所は農林水産省により山村振興対策事業の特認事業として採択され総建設費約3億3千万円で国・県補助金約70%を受け1993年3月完成、同年9月から発電を開始したのです。

## 現状と今後の課題

運転開始からこれまで概ね順調に運転が行われて来ましたが、溪流の規模が小さいゆえに年間発電量は天候に大



取水施設

きく左右されます。通年発電が出来た年の平均発電量は約60万kWh、事業効果として生み出される収益は約650万円、自家消費率は約70%、維持管理費は約400万円と地域住民の憩いと雇用の場である下北山スポーツ公園施設の運営の一助となっています。

発電の長期停止は2回あり、2004年相次いだ台風により取水施設が壊れ、放水口が大量に河川に流出した土砂により埋没し、一時的に発電所内部も浸水をし、8ヶ月にわたり運転が出来ない状況となった他、運転開始より18年目の2011年8月、小又川発電所は原因不明の停止をし発電が出来なくなりました。後の調査により発電制御を司る一部の重要な部品の故障と判明しましたが経年変化による劣化です。

18年前建設時に携わった小水力発電メーカーは経営悪化により既に清算され存在せず、新たな企業のもと一日でも早い再起動に向けて修繕に取り組み事となりました。

しかし、修繕には結果19ヶ月を要しました。発注準備を合わせ工事に要した期間は9ヶ月でしたが、脆弱な村財政がゆえ、修繕に要する最も有利な資金の確保の為に時間だけが過ぎてい

きます。たとえ故障部分の機器が一新されたとしても、他の機器が問題なく再起動するとは限りません。

停止をしても必要な費用は発生します。心配を募らせましたが漸く開所から20年を迎えた2013年3月約3千万円の工事費により運転の再開にこぎ着けました。

過去の制御機器はアナログ機器でしたが、修繕後はデジタル化され、試験調整から発電を伴う試運転までの機器の状況や安全な運転を段階を追ってスムーズに管理出来る様子が20年間の技術の変化を感じました。しかし、逆にデジタル機器の寿命は一般的に短く10年程度で、以前の機器の寿命



制御機器

はアナログ機器だったがゆえに18年動き続けたのであろうと聞かされ複雑な思いを抱きました。

修繕にたずさわった企業では農業用水を利用し自社が管理運営する1000kW級の発電所の建設にも着手しているとの事で、数十キロの水力発電機器の製造も手がけたが、一般論で言えば小水力であっても1000kW級の発電が出来ないと企業として取り組むつま味が生じないと聞かされました。当時、あらゆる条件を乗り越えて規模決定した小又川発電所ではありましたが発電規模の小ささから運転により生み出される収益が、今後運転を継続し続ける為の機器設備の更新に対応出来るのか将来への課題が出てきております。

運転開始からの20年で国内の電力諸事情は大きく変化しました。特に2011年3月の東日本大震災では、原発依存の体制からの転換が求められております。

残念ながら、小又川発電所は発電開始後20年を過ぎている事で、再生可能エネルギー法FIT(固定価格買取制度)の恩恵にはあすかれませんでした。数ある中小河川の水を利用した小水力発電は、環境にやさしいエネルギーとして、もっと注目され取り組みが進められることを願ってやみません。

下北山村 産業建設課

(平成26年4月14日付第2876号)

戦国随一の人気を誇る真田幸村公の赤備え甲冑(複製)



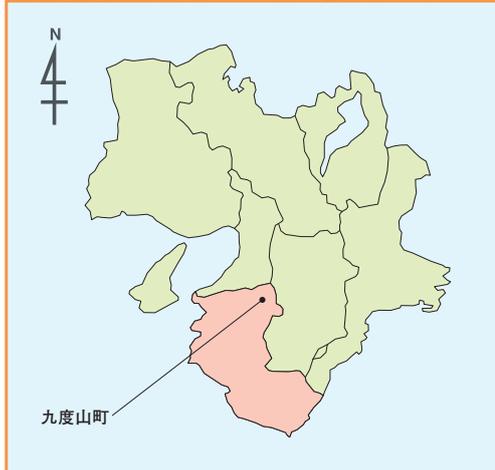
# 幸村を観光の新たな柱に

## 町民とともに日本一元気な町を目指して

和歌山県

# 九度山町

く ど や ま ち ょ う

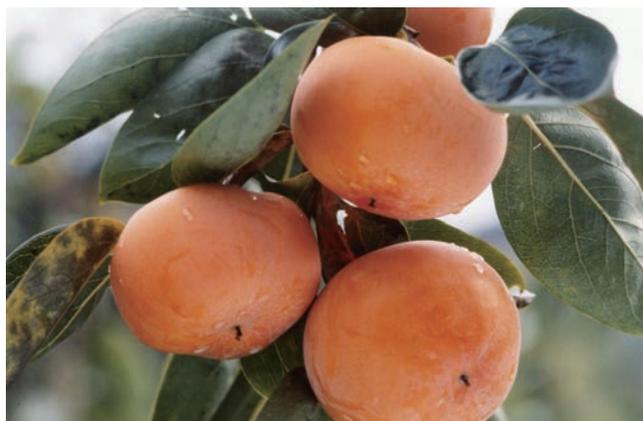


### 九度山町の概要

九度山町は和歌山県の北東部(伊都地域)に位置し、県庁所在地和歌山市に車で約1時間、大阪都市部へは電車で約1時間とアクセスもよく、南は真言宗の開祖弘法大師が開いた高野山を有する高野町と接する人口約4千6百人、面積44・15km<sup>2</sup>の非常に小さな町です。

町内に在る弘法大師ゆかりの慈尊院

日本一の品質を誇る特産品「富有柿」



(じそんいん)や丹生宮省符(につかんじょうぶ)神社、高野山町石道(こうやさんちょういしじみち)は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれています。また、日本一(ひのもといち)の兵(つわもの)と呼ばれた真田幸村公が、大坂の陣に出立するまでの14年間、人生で一番長い歳月を過ごした地でもあります。その縁により長野県上田市とは昭和52年5月より(当時)は長野県真田町)姉妹都市として交流を重ねています。秋には日本一の品質を誇る特産品「富有柿」が京阪神を中心に好評をいただいております。しか

しながら、平成の合併も不調に終わり単独での町行政を進める必要があった本町においても、例外なく少子高齢化の波が急速に訪れました。農業も後継者不足となり、特産品「富有柿」についても存亡が危ぶまれる状況となっております。

### 新たな観光を産業に

そのような状況のなか、平成18年より農業に次ぐ新たな産業の柱として「観光」を位置づけ、まちづくりを進めてきました。世界遺産に含まれる各史跡は信仰の対象として多くの観光客が訪れていましたが、一方で、中心市街地は真田幸村公の屋敷跡である真田庵(寺院)以外の見どころが無く閑散としていました。そこで戦国武将随一の人気を誇る「真田幸村」を新たな観光の柱と位置づけ、埋もれた観光資源を掘り起こし、磨き上げることで新たな観光周遊ルートの整備に取りかかりました。

まず世界的に有名な日本画家平山郁夫先生(故人)ゆかりの館を平成19年5月に「松山常次郎記念館」として、また、日本の障害者福祉の母と呼ばれる大石順教尼ゆかりの屋敷を平成22年1月「大石順教尼の記念館」としてそ

古民家を利用した「まちなか休憩所」観光客だけでなく町民の憩いの場となっている。



れぞれ開館。真田庵に加え2施設を整備することができました。

このような町の取組に連動し、町民有志の方々が自らまちづくりに立ち上がってくれました。「まちなか休憩所」は町内のおばちゃんグループ「真田いこい茶屋」が平成21年6月から運営し、営利目的でない心温まるおもてなしで観光客を迎え入れています。また、九度山町住民クラブも同年より春に約一ヶ月間「町家の人形めぐり」を開催。商店街の家を中心に約60軒の家々が人形を飾り、九度山を訪れる

方々を楽しませています。また、両団体ともそれぞれ県内で表彰を受けるなど取組が認められ、より一層励みとなって活き活きと活動されています。

### 真田幸村を取り持つ縁で

同時に観光地には「食」が必要と考えました。そこで、真田幸村公が本町に閑居となった際に伝えたと言われる信州そばを現代に復活させ「紀州九度山真田そば」を開発。真田庵の隣に町の第三セクターで運営するそば処「幸村庵」を平成22年11月にオープンしました。これまで本町にはそば文化はなく、ゼロからのスタートでしたが姉妹



「そば処幸村庵」本格的な信州そばが味わえる。



「大収穫祭 | N九度山」特産品「富有柿」の特売も実施。

都市長野県上田市母袋市長の全面的なバックアップのもと、職人を上田市に派遣し、一から研修を受けそば作りを学びました。町職員も連日試食に参加し、試行錯誤を重ね、約二年半かけて「幸村庵」開業にこぎ着けました。本場の信州そばを味わえると大変好評をいただいております。

また、町職員の発案で本町の特産品「富有柿」をテーマとした「大収穫祭 | N九度山」を平成19年11月より開催。職員総出でイベント準備・運営に携わっています。真田氏を偲んで開催している春の「真田まつり」が唯一の大きなイベントだった本町にとって、秋の大イベントが出来上がりました。現

在では2日間で約2万人の来場者が訪れる大イベントとなり、皆さん本町の秋の味覚を楽しんでくれています。イベント開催に対して、柿収穫の最盛期と重なるため当初は消極的であった農家の皆さんも、消費者の方々と直接対話し自慢の柿を喜んで購入してくれる姿を見て次第に生産意欲を増すなどの相乗効果も生まれました。

前述した住民による自発的な「まちおこし」を含め、これらの取り組みは、真田幸村公が取り持つ縁で姉妹都市長野県上田市と様々な交流が生み出して



真田昌幸・幸村父子を偲んで「真田まつり」を開催。武者行列は勇壮。

くれたもので、本当に実りある有意義な姉妹都市交流をさせていただいていると自負しております。

### 住民と観光客のための「道の駅」オープン

このような官民一体となった様々な取組により観光客は着実に増加して参りました。一方で、観光情報の発信基地及びトイレの付随した大型駐車場等町の不足している機能も浮き上がってきました。

そこで次に、町の基幹施設として道の駅の建設計画(当初は地域振興交流施設)を実行に移しました。建設予定場所は町の中心街と世界遺産の史跡が集積する地域のちょうど真ん中に位置し、町内で唯一といって良いほどまとまった平坦地。それゆえに単なる観光客向けではなく、町民にとっても利用できる有意義な施設を目指しました。具体的には、本町のみならず世界遺産で結ばれた近隣町の観光情報を発信する高野地域世界遺産情報センター、町民の買い物対策として日常の買い物ができる直売所施設、地域食材を活用したベーカリーカフェ、子どもの遊び場としての大型遊具、そしてイベント会場兼、ドクターヘリの離発着場を兼ね備えた防災広場。それらの機能を有する

道の駅「柿の郷くどやま」を構想から約6年の歳月を要し平成26年4月オープンさせました。

直売所は町による直営も検討しましたが、柿以外の農産物が乏しい本町では、町民の買い物場の場とするためには年間の品揃えが難しいと判断し、県内の産直施設を手がける企業にテナント貸しとしました。企業側には町民のため日用品の陳列をお願いし、快諾をいただいたのが非常に嬉しかったです。



さまざまな機能を有する本町の拠点施設「道の駅 柿の郷くどやま」

その結果、年中和歌山県内産の農産物やお土産品がふんだんに陳列され、観光客のみならず町民の買い物の場として連日賑わいをみせています。このような様々な取組の成果として平成18年約14万8千人であった観光客は平成26年には約63万6千人まで増加する結果となっています。この間、長野県上田市をはじめ大坂の陣の舞台である大阪城など真田ゆかりの関係各所にご協力を仰ぎながら、町単独でも首都圏・名古屋・京阪神を中心に地道な観光・特産品PR活動も続けて参りました。今から思えばそれら全てが形となって現れてきたように思います。

### 大河ドラマ「真田丸」決定

道の駅のオープンよりほどなく、平成28年のNHK大河ドラマ主人公が本町ゆかりの真田幸村公に決定しました。この背景には約5年間の年月をかけて全国の真田氏ゆかりの自治体が連携し署名活動を行うなど誘致活動を行ってきた努力の賜であります。うれしさと同時に、80万人を超える署名に協力して下さった真田ファンの皆様へ感謝の気持ちで一杯になりました。しかしながら喜びも束の間です、大河ドラマ放送までの準備期間は2年もあり

九度山真田ミュージアム(内観)



ません。早急な対応に迫られました。真田幸村公が人生で一番長く生活した地ではありますが、屋敷跡と呼ばれる真田庵(寺院)はあるものの、閑居の地である本町に、現存する資料等は残っていないのです。

### 九度山・真田ミュージアムの建設へ

そのような本町だからこそ、逆転の発想として九度山での暮らしぶりに思いを巡らせ、「九度山の真田」を自由なイメージの下に映像やパネル展示を行い、単に見学する資料館に止まることのない、体感していただける施設として「九度山・真田ミュージアム」を平

成28年3月13日にオープンしました。同時に大河ドラマ放送でいうっしやる多くの観光客に楽しんでいただくよう大河ドラマ展を開催し、ドラマで使用した衣装や小道具類を展示し、大河ドラマの魅力を存分に紹介します。

本町としては、当施設を真田氏をテーマとしたまちづくりの集大成と位置づけており、大河ドラマ終了後も「真田氏ゆかりの地 九度山」の情報発信拠点として恒久的に開館して参ります。また、近隣自治体はもとより民間事業者にも幅広く協力していただき、

大河イヤーを本町のみならず伊都地域の交流人口増加や経済効果、知名度向上に繋げて参りたいと考えています。

### 今後の課題と展望について

端的に言えば大河ドラマが生み出す効果をいかに持続させるかが課題となります。幸い戦国武将随一の人気を誇る真田幸村公ですので、ドラマ終了後もその人気は持続するものと考えていますが、これを機会に幸村ファンの来訪者の皆様にも九度山ファンになってもらい、リピーターを増やすと共に、移住・定住の地として九度山町を選んでいただけのように、前述した住民のグループと共に官民一体となった「魅力あるまちづくり」が必要だと考えています。もちろん長野県上田市をはじめ今までのご縁を大切にしていけることも忘れてはなりません。観光面だけでなく、農業の後継者問題、住みよいまち・子育てしやすい環境づくり等々取り組む課題は多岐にわたりますが、真田氏を町のシンボルとして住民が結束し、小さくても「日本一元気な町九度山」を目指し努力して参りたいと考えています。

九度山町 企画公室

(平成28年3月7日付第2952号)



九度山真田ミュージアム(外観)

錦秋の蛇腹路を進む



和歌山県

# 高野町

こう や ちょう

N  
4  
十



## 高野町の概要

高野町は、紀伊半島の中央部、和歌山県と奈良県が接する標高約850mの中山間地帯に広がる人口約3、300人の町で、高野山がその中心となります。

高野山は、816年(弘仁7年)、時の帝、嵯峨天皇から弘法大師空海が、真言密教の根本道場を開くため、「真

土(一)以南の七里四方」を賜ったことに始まり、2015年(平成27年)には、開創から1200年の節目の年を迎えました。(二)

高野山は、1200年の歴史の中で、真言密教を基本とした独特の伝統文化を守り育てて来ました。また、奈良や京都、大阪から遠く離れた山間に位置したことから、政治や時代の流れに翻弄されることが少なく、真言密教の根本道場「学びの地」として、また敬虔な信者の「信仰の対象」として時を重ねたことで、「伝統文化」とともに、「山の正倉院」と称される程、貴重な仏教美術品を始め、様々な書画や工芸品が遺されて来ました。

## 世界遺産登録

高野山は、これらの「人類共通の遺産」と、これからも総本山金剛峯寺を中心に、真言密教の教理に基づいた高野山独特の伝統や文化を継承し続けて

# 高野町におけるインバウンドの取り組み

増え続ける外国人観光客

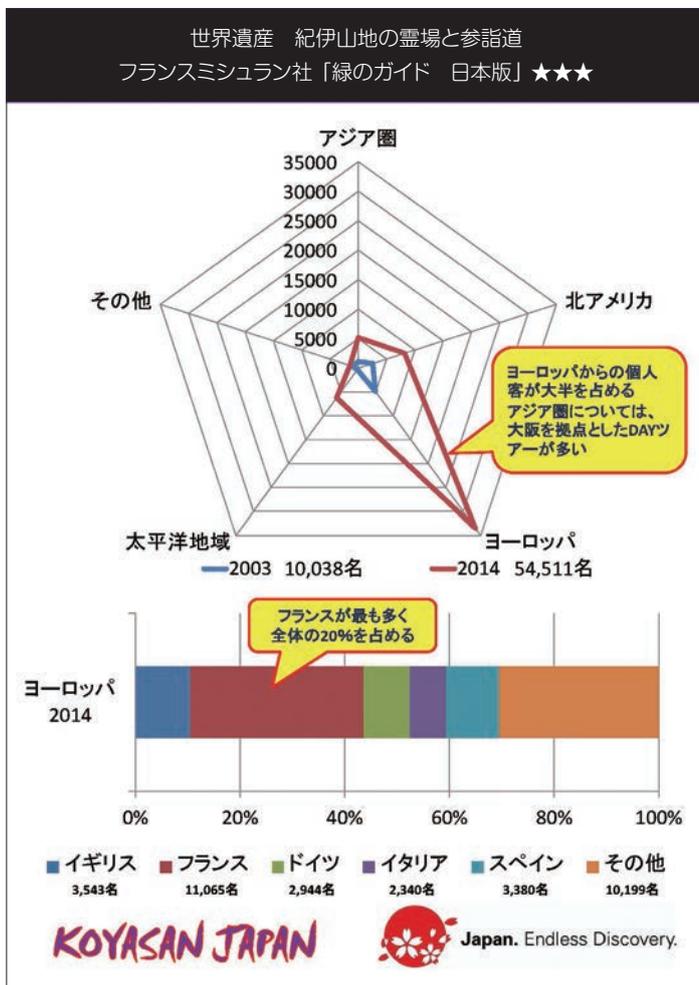
行くことができるというところが評価され、2004年(平成16年)7月7日、「紀伊山地の霊場と参詣道」(iii)として世界文化遺産に登録されました。資産と資産を結び「道」が「文化的景観」という概念に基づき世界遺産に登録された例は少なく、フランスからスペインへと続くキリスト教の聖地巡礼の道のひとつ「サンチアゴ・デ・コンポステラへの巡礼の道」とともに(iv)、非常に珍しい例として知られています。

高野山への外国人観光客の入り込み数は、世界遺産に登録された2004年(平成16年)を境に顕著な伸びを見せています。2014年(平成26年)の1年間に、54,511名の外国人が高野山に宿泊し、宿泊客全体の20%、5人に1人を外国人が占めるまでになっています。特にヨーロッパ諸国、特にフランスからの訪問者の比率が高いのが特徴です。

私たちは、この特徴には理由があると考えています。

ひとつは、「キリスト教(ローマ正教)と仏教(真言密教)の違いはある

高野町における入り込み客数について



が、根底に宗教の基盤があり、日常のそこそこに通じるものを持つ」ということです。例えば、ヨーロッパの教会で「早朝ミサ」に列席する。高野山の宿坊の本堂で早朝「勤行」に参加する。宗教の違い、場所の違いはあるもののそこには雰囲気も含め全く同じ敬虔な「祈りの光景」が広がっています。

また、「どちらにも『巡礼の文化』が根付いている」という点も見逃せません。ヨーロッパには、キリスト教の巡礼地として、エルサレム(イスラエ

ル)、ローマ(イタリア)、アッシジ(イタリア)、サンチアゴ・デ・コンポステラ(スペイン)などがあり、毎年多くの人々が参拝や観光に訪れます。特に近年サンチアゴ・デ・コンポステラへの巡礼は人気が高く、年々その数が増えているといわれています。

日本においても、「高野詣り」、「四国八十八箇所巡礼」や「西国三十三箇所巡り」などが盛んに行われています。

この共通性は非常に重要なファクターであると考えています。

また、文化に対する考え方も影響していると考えられます。ヨーロッパの各国は自国の文化に強く誇りを持つとともに、他国の文化にも興味を持ち、受け入れようとする傾向が強いと思われれます。このことから、日本を訪問する際、仏教の聖地として世界遺産に登録された「高野山」を訪ね、「見て・感じてみたい」と考えるのではないのでしょうか。

外国人が多く訪れる俗にゴールデンルートと呼ばれる大阪・奈良・京都などに近く、大阪難波からは南海高野線を利用し2時間足らずで入ってこられるなどアクセスの容易さ(v)も大きな要因であると考えています。

そして、何より「外国人にとって『日本らしさ』と感じられる街である」という点が大きいと考えています。周りを森で囲まれ、お寺の屋根が軒を接する日本的な景観、堂塔伽藍の持つ神秘性、奥之院の静寂などが多くの外国人の感性に「日本ら

僧侶の給仕による精進料理



「お寺」の宿泊、僧侶の給仕による「精進料理」の夕食、早朝の本堂での「勤行」、写経や阿字観(瞑想)などの体験など、「お寺で泊る」という独特な「生活文化体験」が行えるのも高野山ならではの魅力です。

### 外国人観光客への対応

高野山では、参拝や観光に来られる人々の利便性向上や町としてのアイデンティティーの向上のため、総本山金

剛峯寺や民間団体、住民、和歌山県と協働し、様々な施策を講じて来ました。

まず、「景観の向上」として、「電線の地中化」を昭和63年より計画的に実施。現在主な幹線道路においては「電柱電線のない広い美しい空」を取り戻しています。また、2008年(平成20年)12月、高野山らしいお寺を中心とした景観を維持するため独自の景観条例を施行、ファサード整備の補助金の創設と合わせ、景観の維持向上に努めています。

案内板や誘導板等のサインについては、景観に配慮し多言語を羅列するの



電柱の地中化を計画的に実施

ファサード整備の補助金で景観を向上



ではなく、日本語と英語の二カ国語に絞り表記、シンプルなものにするかわりに、世界共通のピクトグラムを導入することで、「見て解る」ものに統一しています。また、英語表記については、国土交通省の「多言語案内表示ガイドライン」に則り、「意味の伝わる表記」とするよう努力しています。案内板については日本の観光地に多いイラストマップではなく、外国の観光地の多くで利用されている距離や角度が直観的に解る地図をベースとしたものを使用するようになっています。

2013年(平成25年)からは、町

独自の補助制度にてWi-Fi環境の充実を図って来ました。宿坊や飲食店を対象に2力年で14箇所を整備。この甲斐あって、外国人観光客が多く利用する宿坊については、ほとんど全館全室でWi-Fiが利用できるようになり、宿泊される皆さまから喜んで戴いています。

また、和歌山県トイレ大作戦の補助制度を利用し、老朽化した高野山内の公衆トイレの改修を実施、自動洗浄便座やオストメイトへの対応、ヒーター、多目的トイレが設置され、綺麗で利用しやすい公衆トイレとなっています。

### 今後の課題

今後も外国人に優しい参拝観光地としての高野山を維持するため、本年度において、一般財団法人全国市町村振興協会の助成を戴き、Wi-Fi機能付き自動販売機を活用した街中Wi-Fiの充実や観光拠点へのWi-Fiの導入を進めるとともに、地方創生交付金(先行型)を活用し「観光ナビ」(多言語スマートフォンアプリ)を開発しております。これらの取り組みにより携帯電話が利用しにくい外国人観光客の

利便性が向上することで、滞在時間の延長や、より深く高野山を知ってもらうことにより、リピーターの増加や口コミでのPRが充実することを期待しています。

また、日本政府観光局(JNTO)や和歌山県などから依頼される海外旅行会社や海外メディアのファムトリップなどの受け入れを強化すること、海外旅行会社や海外メディアとの商談や

情報交換を行うなど地道な努力も必要と感じています。9月下旬東京ビッグサイトで行われた「VISTART JAPAN トラベル&MICE マーケット 2015」に高野山内の観光関連団体と協働し高野町ブースを出展、20社を超える海外旅行代理店、海外メディアと商談や情報交換を行いました。今後、海外各地で行われる旅行博覧会へも積極的に参加し、「聖地高野山」

の正しいイメージを一般にも直接PRする必要を強く感じております。

また、高野町とイタリア国ウンブレア州ペルージャ県アッシジ市との間に、「高野町アッシジ市 日伊世界遺産都市の文化・観光相互促進協定」が締結されており、この関係性を大切にするとともに、ヨーロッパ諸国などキリスト教圏からの観光客を誘致するための切っ掛けとして大いに活用してい

きたいと考えています。同じく本年釈迦の生誕地であるネパール国ルンビニと交わした「世界遺産都市の文化・観光相互協定」についても、何らかの形で今後インバウンドに寄与してくれるのではないかと期待をしています。ひとつひとつ確実な対応を重ねることで、よりよい参拝観光地高野山を創造すべく、今後も努力を続けて行きたいと考えています。

高野町 産業観光課  
(平成28年2月8日付第2949号)



空海が建立を進めた根本大塔



金剛峯寺山門

- i 現在の橋本市隅田町真土
- ii 本年4月2日から5月21日の50日間、「高野山開創1200年記念大法会」が執行され、60万人の参拝観光客が訪れた。
- iii 和歌山県、奈良県、三重県にまたがる仏教(高野山)、神道(伊勢)、修験道(吉野)の聖地とその聖地を繋ぐ道が世界遺産として登録されている。
- iv 2014年(平成26年)、「天山回廊の道路網(シルクロード)」が道として世界遺産に登録されている。
- v 関西国際空港の役割も非常に大きいと考えられる。

三徳川ほとりに立ち並ぶ「三朝温泉街」



鳥取県

# 三朝町

み さ さ ち ょ う



## 三朝町の概要

「三朝町」は、鳥取県のほぼ中央部に位置し、東西24km、南北19kmで、総面積は233.52km<sup>2</sup>。総面積の約90%を山林原野が占め、町内には一級河川天神川と、その支流となる3本の谷筋に沿って64の集落が点在している、昭和28年に誕生した人口約7千人の町です。町の主な産業は、「観光業」と「農林

心と身体を清め、癒してくる。

「日本遺産」のまち

## 三日目の朝には病が消える温泉

「業」で、観光では、世界屈指のラジウム含有量を誇る「三朝温泉」があり、年間約40万人の宿泊客があります。また町内には、平成26年、国立公園に編入された国宝投入堂を有する修験山の「三徳山」があり、この両地域は平成27年4月、日本で初めての「日本遺産」に認定されたことから、今後の観光振興に大きな期待を寄せています。

三朝温泉の起源は、今から850年前の平安時代後期、平治の乱で敗れた源氏の家来・大久保左馬之祐という武将が三徳山へ源氏復興を祈願に訪れた際、白い狼の導きで温泉を発見したという「白狼伝説」に由来しています。

そして、この発見から三朝温泉は長い歴史の中で「湯治場」として栄え、大正5年、高温泉ではラジウム含有量が日本一であることがわかり、世界屈指のラジウム温泉として脚光を浴び、



温泉街で人気のある「足湯」

湯治イラスト



「不老長寿の湯」とも呼ばれながら、多くの人々に親しまれてきました。このことから、現在の「三朝(みささ)」という町名も、その温泉の効能を表したとする説が有力視されており、

**三拍子揃った温泉**

現在、温泉街には約80か所の源泉があり、それぞれの源泉では、40℃から70℃までの温泉が毎日、こんこんと湧き出ています。



三朝温泉のシンボル「河原風呂」

「お湯に浸かれば、三日目の朝には病が消えることが三朝と名付けられた」と考えられています。

そして温泉街は、街の中心を流れる三徳川を挟んで、両岸に25軒の旅館が立ち並び、温泉情緒あふれる街並みを形成しており、全ての旅館では、「源泉かけ流しの風呂」を有するほか、各旅館では「オンドル」や「蒸気風呂」、「足湯」といったさまざまな温泉の活用を楽しんでいただくことができるようになっています。

**科学的に証明されつつある健康効果**

泉質は無色透明で、「吸ってよし、飲んでよし、浸かってよし」と称され

るように、飲泉もできることから、温泉街に点在する飲泉場では、持参の容器にお湯を汲んで持ち帰られる皆さんの姿も数多く見受けられます。

古くから湯治場として栄え、さまざまな効果があるとされてきた三朝温泉ですが、これまで、そのメカニズムについては、完全に解明されていたわけではありませんでした。



浴衣での散策が似合う風情ある温泉街

そんな中、平成21年には、三朝温泉の健康効果を科学的に証明するため、世界初となる「三朝ラドン効果研究施設」が温泉街に隣接する岡山大学病院三朝医療センター内に設置され、岡山大学と日本原子力研究開発機構との共同研究によって、「三朝温泉のお湯が及ぼす健康効果」について、科学的な研究が進められてきました。

現在、この研究では、その成果として「ラジウムが気化し、それによって発生するラドンガス(湯気)を吸い込むことにより抗酸化機能が高まり、アルコール性肝障害の緩和や糖尿病の症状の緩和、炎症性や神経障害性の疼痛の緩和などに効果がある」ことが示唆されています。

このことは、これまで経験的に身体に良いとされてきた三朝温泉の健康効果について、学術的な証明に向かうものであり、「不老長寿の湯」として栄えてきた三朝温泉にとっては、今後の研究成果に大きな期待を寄せているところです。

今に甦る「現代湯治」

野口雨情、志賀直哉、与謝野晶子、  
齊藤茂吉、島崎藤村―など、豪華な顔  
ぶれの文豪達も、この三朝温泉へ「湯  
治」に訪れています。

そんな三朝温泉では現在、かつての  
湯治を現代風に甦らせ、心と身体を癒  
していただくことのできる「現代湯  
治」に取り組んでいます。

現代湯治とは、温泉をとことん楽し  
んでいただきながら、健康を見つめ直  
していただく現代人に適した「新しい



三朝医療センター「ラドン熱気浴」



何十年も続けられている「鉱泥湿布」

湯治」のスタイルで、温泉街にある医  
療機関と旅館が連携し、旅館に滞在し  
ながら、医療機関が行っている「熱気  
浴療法」や「鉱泥湿布」といった温泉療  
法を受けることができるほか、落ち着  
いた温泉街でゆっくりとした時間を過  
ごしていただくことにより、心と身  
体を癒していただくというものです。

国内唯一の「温泉療法」

国内では三朝温泉でしか行われてい  
ない温泉療法―。

その一つが、三朝医療センターで行  
われている「ラドン熱気浴」療法です。  
同センターでは、神経痛やリウマチ、  
ぜんそくの患者さんへの治療にこの療  
法が利用されているほか、三朝温泉に  
宿泊される一般のお客様でも、気軽に

体験していただくことが  
できるようになっていま  
す。

この療法は、温泉で熱  
した室内に30分ほど入  
り、汗をかいて代謝を促  
進するもので、温泉に含  
まれるラジウムが気化し  
てできる微量なラドン放

射線を吸うことによって、体内の細胞  
が刺激を受け、血液循環の改善や身体  
の痛みの軽減などといった「ホルミシ  
ス効果」と呼ばれる健康効果が得られ  
るもので、このような療法が行われて  
いるのは、オーストリアの温泉地・バ  
ドガシュタインと三朝温泉だけである  
とされています。

一方、同センターでは、「鉱泥湿布」  
と呼ばれる治療も行われています。こ  
の療法は、温泉水を加えた粘土質の泥  
を釜で80℃まで温め、それを布で何重  
にも包み患部に湿布すると、30分程度  
で、血流の増加により痛みの元となる  
物質や老廃物を排出する効果があると  
言われ、腰痛や関節痛のほか、気管支  
喘息などの呼吸器系、炎症系の疾患な  
ども効果が表れるとされています。  
昭和14年、岡山医科大学三朝温泉療養

所として発足した現在の三朝医療セン  
ターでは、昭和33年頃からすでに、こ  
れらの治療法が取り入れられており、  
長い間、療法が変わっていないことが、  
その効果を実証していると言えます。  
さらに、これらの療法は、体験者へ  
のアンケート調査結果によると、95%  
の体験者がある健康効果を感じたと答  
えられ、「痛みが軽くなった」「呼吸が  
楽になった」「足が軽くなり歩きやす  
くなった」などといった声が寄せられ  
ており、三朝温泉の泉質の良さを示す  
ものとなっています。



温泉街の夜を彩る「打上げ花火」  
花火師は全員、町民

## 開湯850年

温泉が発見されてから850年という節目を迎えた三朝温泉では、さらに町を盛り上げていくため、全町的な取り組みとして平成25年度から27年度まで「開湯850年記念事業」に取り組み、温泉街の振興と再整備に向けてきました。

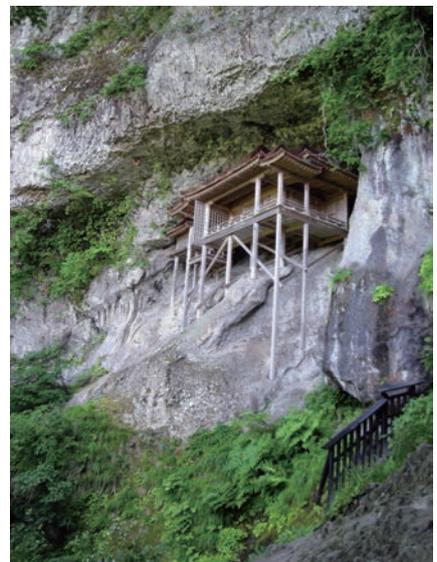
ソフト面では、観光関係者だけでなく、町民が主体となって企画をまとめ、情報発信やイベント開催などに取り組んでいただきながら、全国の皆様にもその効能のために、わざわざ足を運んでいただくことができる温泉地になることを目指しています。

この事業に取り組んできた成果としては、町民参画による取り組みであったことから、まちづくりに対する町民の意識が徐々に変わってきたことが挙げられます。

850年記念事業のイベントとして取り組んだ「夏祭り」では、町民自らが花火を打ち上げる許可を取得し、十数名の町民からなる花火師が一か月以上にわたって毎晩、温泉街で花火を打ち上げるなど、今後も町民を主体とした花火師を増やしていきたいながら、活気ある温泉街再生に向けた展開を目指しています。

また、ハード面においても、昔から続く風情や景観を大切に守りながら、三朝温泉にお越しいただく皆様が、その歩きを楽しんでいただくことができるよう、手入れの行き届いた心地よい温泉地になることを目指し、周遊拠点となる観光案内施設や駐車場、公園施設等を整備したことによって、郷土芸能の披露や農産物の販売等、

三徳山のシンボル「国宝投入堂」



施設を活用した町民による賑わい創出に向けた取り組みが始まっています。

### 心と身体を清め、癒すまち

全国には、さまざまな特徴を持つ温泉地が数多くあります。

本町の主産業である観光業はこれまで、三朝温泉を中心として発展してきましたが、全国の多くの温泉地の例に漏れず、人口減少や観光客の旅行形態の変化、価値観の多様化などに伴い、宿泊者数が年々と減少してきたことなど、温泉地を取り巻く環境は大きく変化し続けています。

本町では、先人のたゆまぬ努力と創意工夫によって発展してきた三朝温泉

をはじめとする貴重な資源を、自信を持って後世に引き継いでいくためにも、今こそ町全体が一丸となって町の発展に努力していかねばならないと考えています。

先に認定された「日本遺産」では、これまで、本町の観光の両翼を担ってきた「三徳山と三朝温泉」が、その対

象となりました。

三徳山への参拜で六根(目・耳・鼻・舌・身・意)を清め、三朝温泉での現代湯治で六感(視・聴・香・味・触・心)を癒していただく町として、これまでの歴史が、ここにしかない「貴重な宝」として認められたものだと考えています。

今後、これまでの取り組みに誇りを持ちながら、町民参画によるまちづくりをさらに進め、より多くの皆さまに愛していただくことのできる町となることを目指しますので、ぜひ一度、「心と身体を清め、癒すまち三朝町」にお越しいただき、明日への活力となる本町の魅力を体験していただきますようお願いいたします。

三朝町長 吉田 秀光

(平成27年7月13日付第2926号)

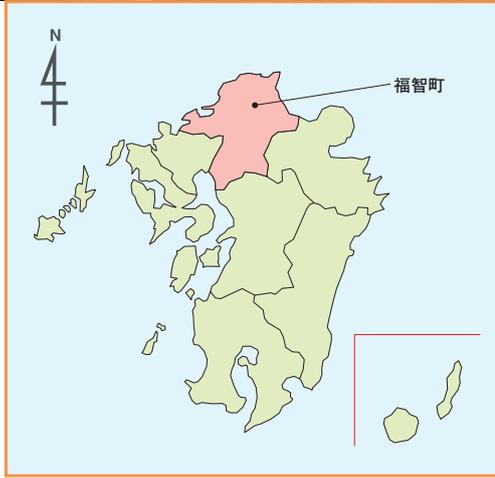


ただくことができるような、手入れの行き届いた心地よい温泉地になることを目指し、周遊拠点となる観光案内施設や駐車場、公園施設等を整備したことによって、郷土芸能の披露や農産物の販売等、

福智山の中腹に咲く推定樹齢600年のエドヒガン「虎尾桜」



福岡県  
**福智町**  
ふ く ち ま ち



まちの魅力を結集した平成の大茶会  
人口を上回るPRイベントの実現

あがのやき  
**上野焼と童謡の里・福智町**

福智町は、平成18年3月に赤池町・金田町・方城町の3町が合併して誕生した人口約2万5千人の町です。名峰・福智山が裾野を広げ、遠賀川水系の彦山川が貫流する環境の中で、今日まで豊かな文化が育まれてきました。町内には福智修験ゆかりの文化財や足利尊氏ゆかりの古刹「興国寺」、宮本武蔵ゆかりの「常立寺」などが点在。福

岡県内最大最古で樹齢6百年のエドヒガン「虎尾桜」や樹齢5百年の大藤「迎接の藤」、上野峡の瀑布「白糸の滝」など、天然資源にも彩られています。

また、かつては、わが国のエネルギーを支えた筑豊炭田の一角として、屈指の鉱山を有する成鉱の町として栄え、近代化遺産も残されており、「かもめの水兵さん」や「つれいひなまつり」など、数々の名曲を残した作曲家・河村光陽の生誕地として、音楽の町づくりも展開しています。そのような多彩な歴史や文化を誇る福智町ですが、なかでも町を代表する地域資源が伝統的工芸品の「上野焼（あがのやき）」です。

**人口以上の参加者を誇る  
メインイベントの実現**

現在21の窯元が点在する「上野焼」は、千利休の高弟で当時屈指の大名茶人・豊前小倉藩主の細川忠興が、李朝陶工の尊楷を上野の地に招いて開窯した国焼茶陶。御用窯かつ藩窯としての

歴史を重ね、400年以上の伝統が受け継がれている国指定の伝統的工芸品です。その歴史も伝統も誇るべき陶芸ブランドなのですが、近年のライフスタイルの変化や、焼きものばなれが進むなか、その影響を受け、上野焼400年祭をピークに売り上げも知名度も伸びず、入り込み客数も減少の一途をたどっていました。

一方で、観光スタイルが多様化し、隣接する田川市の「山本作兵衛炭鉱記録画」が世界記憶遺産に指定されたこともあり、地域には徐々に観光客が訪れるようになってきました。このよう



足利尊氏ゆかりの古刹「興国寺」

利休七哲の大名茶人、細川忠興が創始した上野焼(あがのやき)



なニーズと環境の変化により、従来の観光地ではない福智町でも、手法や展開次第で成果を挙げる可能性がひろがったことを認識し、福智ならではの風土や魅力を活かした観光のまちづくりを加速させることになりました。そこで求められたのが、まだまだ知られていない「福智町」や

「上野焼(あがのやき)」の知名度を向上させ、交流人口と地域活性化を高め、内ではなく外に向けた、観光型のシンボルイベントでした。

どついたら集客できるか、いかにすればP



新たな町の特産品として開発した「ふくち☆リッチジェラート」

R効果や経済効果が得られるのか。そのことを追求した結果、福智ならではの魅力を融合させる手法を取り入れることにしました。

単体では弱い地域資源の力でも、結びつけることで相乗効果が発揮され、強くなります。実際「上野焼陶器

まつり」だけでは従来のように集客できないという課題も背景にありました。そこで取り組んだのが「フクチ・ファインド・フェスティバル」です。郷土の食、上野焼の器、童謡の町の音楽、それら「食」と「器」と「音楽」の出会いをテーマに福智を広くPRし、地域ブランド化へとつなげる取り組みに着手。フュージョン(融合)↓ファン(発見)↓ファンの創出を目指して、福智ならで

はの魅力をコラボレーションを核に企画。さらに、打ち上げ花火的な一過性の成果ではなく、新たな福智の魅力となりうる資源を生み出すことを主題に掲げました。



福智名物「方城すいとん」

初回は「ご当地グルメ」をテーマに特産品開発委員会を立ち上げ、日本最大の炭鉱爆発事故をルーツに、炭鉱長屋で育まれた「福智名物・方城すいとん」を発掘しました。その後、ご当地グルメで町おこしに取り組み「福智好いとん隊」が発足し、日本青年会議所主催の「全国地域活性化からいち」では飲食部門で70団体中第1位を獲得。本年度、町内でメニュー化する店舗も10店舗まで増加し、学校給食メニュー化も実現しました。

2回目は「福智ブランド」をテーマに、新たな町の特産品として「ふくち☆リッチジェラート」を開発し、発表披露。上野焼のビアカップにあつ絶品

日本航空やトヨタ自動車九州、OTTOなどの企業と連携した取り組みも展開



グルメを集め、上野焼をはじめとした町内27軒の全窯元が参加する「陶器まつり」も初めて実現し、1万5千人が来場しました。その後、一般社団法人「福智ブランドファクトリー」を設立し、福智素材と手作りにこだわった「六次産業化」を展開。今ではコンビニエンスストアをはじめとする30店舗以上の販路開拓を達成し、雇用と経済とPR効果を生み出しています。

そして3回目となる平成26年には、上野焼の茶陶という最大の魅力に着目。催しを茶会に見立て、日本文化の

総合芸術ともいわれる茶道と、そこに欠かせない茶器、抹茶、茶菓子(スイーツ)、そして一期一会のおもてなしといった、福智にしかないエッセジの立ったコンセプトを設定しました。上野焼の「器」の魅力と「お茶」と「スイーツ」の魅力が互いに高まり合う「平成の大茶会」をテーマとした空間を創出し、ここに「福智スイーツ大茶会」という町の一大イベントを生み出すに至りました。

これまでの取組みの中で、イベントは、結果よりもむしろ、そこに至るま



福智スイーツ大茶会の開場前、金田駅まで長蛇の列が並んだ

でのプロセスにこそ価値と意義があることを学びました。また実務を通じて、真のシティプロモーションは業者委託では限界があり、心を込め、血の通ったPRでなければ人の心を動かすことはできないことを実感しました。たとえ多額の委託金を使って派手なイベントができたとしても、上質なPRしかできず、地域が何かを得たり、そこに残るものは少ないと感じています。こうした振り返りを生かす形で準備を進め、上野焼協同組合や商工会、文化連盟はもちろんのこと、日ごろ町づくりを支援いただいている日本航空やOTTO、福智町に本社を置く平成筑豊鉄道をはじめ、JR九州や西鉄といった企業、地元の福岡県立大学のご尽力を得ながら、つなかりの力を最大限に発揮するイベントとして「フクチ・ファイブド・フェスティバル」は昇華を遂げました。そして、趣旨に賛同いただいた福岡県洋菓子協会の絶大なご協力により、有名店をはじめとする36店舗の出店で、福岡県内最大規模のス



博多ミラベル21とのコラボレーションも実現

スイーツイベントが実現。町の人口を上回る3万人の来場と、数千万円の経済効果とPR効果を残すことができ、町のメインイベントに位置づけられるまになりました。

4回目となった平成27年は、42店舗もの出店により、九州最大規模のスイーツイベントとして実現。前回を上回る規模の集客と経済効果、PR効果を上げ、平成筑豊鉄道の沿線自治体を巻き込んだ広域連携による取り組みに拡大しました。大茶会をコースに含んだ旅行会社の観光ツアー企画や博多の一流シエフ集団「博多ミラベル21」監修による「ふくち☆リッチシエラート」の新作披露。さらには、国内でも例を

取り組みが産んだ  
つながりと気づき

福智スイーツ大茶会の会場風景



見ない陶器製上野焼の特製タンブラーの開発など、後の地域資源となるイベント成果も残すことができました。そしてうれしいことに、延べ100人にも及び行政職員のイベントスタッフ間にも、単なるお手伝いではなく「一緒に成功させよう」という意識共有が芽生えました。他の真似ではなく福智にしか出来ないもの、地域資源を活用する取り組みから、携わる私たちが「福智らしさ」の素晴らしさに出会

い、故郷の魅力やポテンシャルに気づけたのではないかと考えています。当初の目的どおり、ただの人寄せのイベントには終わらせたくなかった大茶会。それはやがて、住民のみさんの共感や驚きと発見、そして誇りを生んだことを実感しています。

その背景には、業者委託ではなく、関係者の熱意と、そこで生まれた各団体との信頼関係が実を結んだことが何より大きかったと思います。実働の中で、担当部署の者たちが本気でやっている姿を示さなければ、人の心も動かない。多くの尽力を借りなければ実現できない規模のイベントだからこそ、ポジションパワー（地位力）ではないヒューマンパワー（人間力）が必要だということを学びました。ほんの少しでも意識が変われば、動き出せば、人が変わる。その積み重ねが町を変えていく。人は変われるし、人を変えるのも人なのだと感じています。

人は感動や心を動かされることがなければ行動にまで結びつきません。ましてや大切なお金を払うこともないでしょう。この取り組みでは経済効果や集客数など、明確な数字で結果を出さなければ

童謡作曲家・河村光陽を顕彰する「協奏の庭」



### 地域の宝はモノではなく人

人の「思い」や「心」を表現して伝えたり、人の心の奥底を真に揺さぶることは、コンピュータやロボットではできないと思います。ましてや「志」を次代に継承することもできないでしょう。地域の宝は、観光資源というモノではなく、それを活かす「人」なのだと思います。

今回の福智町の取り組みでは「想い」や「熱意」、「信頼」や「つながり」といった古くさいキーワードばかりで、ITなどの最新技術や統合型マーケティングコミュニケーションを駆使した先進例ではなく、申し訳なく思っています。でもあえて、その古くさいキーワードこそ、まちづくりには大切なのではないかと痛感しています。そんな志を、次代を担う人たちと共有したいし、多くの人と感動をわかち合いながら、チャレンジを続けたい。福智の空の下で「この町で生きていこう」と、一人でも多くの人に思ってもらえるような町にしていきたいと願っています。

福智町 まちづくり総合政策課

(平成27年4月6日付第2915号)

ならない厳しさもあります。しかしあえて、今後の「フクチ・ファイブ・フェスティバル」では、地域ブランド化に加え、定住促進施策を両輪として連動させた人口増加という壮大なインナーコンセプトを設定しました。それは、まだまだ知られていない真つ白な「福智」の状態だからこそチャレンジできる取組みです。地方創生の政策も含みながら、可能性がある限り高い目標を掲げ、福智ツーリズムや産学官連携など、幅広いアプローチで挑戦していきたいと思っています。

2年連続世界一の評価を受けた小値賀の「民泊体験」



長 崎 県

# 小 値 賀 町

お ち か ち ょ う

小値賀町は、長崎県五島列島の北端部に位置する外海離島で、小値賀本島を中心に大小17の島で構成される火山活動によって生じた珍しい群島です。総面積は25・53km<sup>2</sup>で、島嶼部でありながら地形は平坦であり、複雑な海岸線が織りなす美しい自然環境に恵まれ、島のほとんどが西海国立公園に指定されています。

## 小値賀町の概要



# 観光資源は「島の暮らし」 小さくても輝く島の挑戦

主な産業は漁業、農業そして観光業です。以前は漁業者が多かったのですが、魚価の低迷、燃油の高騰、磯焼け問題等が影響し、年々減少傾向にあります。後継者育成制度や全国に先駆けて漁船の燃油補助等の振興策を実施していますが、長く厳しい状況が続いています。

一方農業は、10数年前に実施された国の畑地帯総合整備事業により圃場やダム等が整備され、後継者や新規就農者が増えてきているほか、近年は子牛の高値などが続いていることもあり、町の基幹産業として振興されています。そして、今回ご紹介する観光事業は「アイランドツーリズム」の展開で、平成18年度以降観光客数は徐々に伸びを見せており、町の新たな産業となって注目されています。

## 「地域づくり総務大臣表彰」大賞を受賞

人口約2,600人の小値賀町が、平成24年度「地域づくり総務大臣表

彰」の大賞(第一位)を受賞しました。これは、地域の個性豊かな発想を活かし、住民をはじめ、様々な主体が取り組む魅力あふれる地域づくりに顕著な功績のあった団体、民間企業、地方自治体及び個人を表彰するもので、30回目を迎える記念表彰において、長崎県で初の大賞受賞となりました。

受賞した理由は、有名な観光資源が乏しい中、NPO法人や島民、行政が協働して、基幹産業である農業・漁業と自然環境を活用し、「グリーンツーリズム」、「ブルーツーリズム」、「エコツーリズム」を一体化した町オリジナルの「アイランドツーリズム」による体験型観光に取り組んでおり、中でも



民泊では島の暮らしを肌で感じます

民泊を中心とした体験プログラムは、住民の主体性を引き出し、全国の離島活性化の模範となる先進的な取り組みであると高い評価を受けたためです。

もちろんこの取り組みは、一朝一夕で築かれたものではなく、様々な難題と直面しながらも、島民の知恵と努力によって乗り越えてきた結果ではないかと思っています。

今回の「現地レポート」では、過疎化の流れの中で小値賀町が各産業や分野においてどのような変遷をとげてきたのか、また小値賀町の体験型観光の現状と課題などをご紹介したいと思います。

### 小値賀町の体験型観光のはじまり

小値賀町の体験型観光のはじまりは、小値賀本島の東海上に浮かぶ急峻な地形の野崎島にある「野崎島自然学塾村」に端を発します。

「野崎島自然学塾村」は、昭和60年3月末で廃校になった小値賀中学校野崎分校の校舎を活用し、昭和62年度から平成4年度に改修工事を行いながら、平成元年度当初に開設した簡易宿泊施設です。

当時は、バブル景気の余韻残る世相で、観光は海外旅行が主流でしたが、

手つかずの自然が残る野崎島の魅力は□□ミで広がり、開設2年目には初年度の約3倍に上る2,319人の利用がありました。

開設から数年間の運営形態は、春から秋までの期間限定で、小値賀町が臨時雇用した管理人が常駐するのみで、体験プログラムの提供やツアーガイドの機能はありませんでした。

そこで、平成10年度から12年度にかけて環境省の「ふるさと自然塾」事業を活用して、野崎島での体験事業について検討と試行を行い、本格的な体験プログラムの提供が可能な任意団体「ながさき島の自然学校」を平成13年度に設立しました。

「ながさき島の自然学校」は、

1. 町民・島民全員が参画する持続性のある自然学校
2. 地域の資源を再発見し、これを活かした環境づくりや環境教育の場
3. 都市交流による滞在型体験自然学校
4. 生き生きとした活力ある島文化共和国の創生

この4点を主な目的として活動を行い、カヌーツーリングや野崎島工コツアー、漁業体験や子どもキャンプなどの事業をボランティアスタッフである



子どもキャンプで一番人気はやっぱり海水浴

住民が協力して実施していました。

「ながさき島の自然学校」は子どもたちの自然体験では一定の成果がありました。1人のーターン者が小値賀の日常に目を向け、都市との交流拡大のため農家や漁家に直接宿泊してもらう宿泊形態を提案、平成18年度に「小値賀町アイランドツーリズム推進協議会」を設立し、現在の小値賀観光の核ともいふべき「民泊」(農林漁業体験民宿)の取り組みが始まりました。

ツーリズム事業の推進にあたり、平成19年には、従来からあった「小値賀町観光協会」と前述の「ながさき島の自然学校」及び「小値賀町アイランドツーリズム推進協議会」の3者を統合

して「NPO法人おちかアイランドツーリズム協会」を設立、小値賀町内での体験事業及び民泊、観光情報の案内に関するワンストップ窓口として業務を行っています。

### 体験型観光の現状

現在、小値賀町内で実施している自然体験は、小値賀島と野崎島の2つのフィールドに分かれます。

野崎島内では、島の歴史的資産や自然を活かした内容となっており、かつての集落跡を巡るツアーや潜伏キリシ



現代風にリノベーションされた古民家

タンが居住していた集落跡や遣唐使時代に建立されたといわれる神社への山道を歩くトレッキングツアーや遠浅の砂浜を持つ入り江でのシーカヤック体験を行っています。

小値賀島内では、島の風景を楽しみながら自転車で巡るサイクリングツアーや東シナ海に沈む夕陽を楽しむサンセットツアーなど、手軽なものが主となっています。

小値賀町内で行っている民泊は、「長崎県農林漁業体験民宿推進方針」に則って行われており、そのうえで旅館業法や消防法の規制緩和を受けて実施されています。

町内の民泊実施者は「NPO法人おちかアイランドツーリズム協会」の会員になることで利用者の予約受け付けや利用料の収受は同法人が行うシステムになっています。

民泊での体験内容は、その家庭の生業である農業や漁業に関連する作業を基本としながら、波止場での魚釣り体験や小値賀の郷土料理作り、島の周囲に広がる磯場での生き物観察などです。

また、小値賀島内での旅館や民宿及び前述の民泊とも異なる宿泊形態として、小値賀町が所有する古い民家を改修し、宿泊施設として供用している事

民泊先のお母さんに郷土料理を習う子どもたち



業が古民家事業です。

この事業は、東洋文化研究者のアレックス・カー氏が初めて小値賀町を訪れた際に、「町内に残る古民家を改修することで新たな観光資源となる可能性が高い」と語ったことに端を発します。

その後、京都で行われていた先行事例の調査や活用可能な補助メニューの検討などを行い、国土交通省と農林水産省の補助事業と過疎債等を利用し、現在までに古民家レストラン1棟、古民家ゲストハウス1棟、古民家ステイ

4棟を整備しました。この古民家ステイ及び古民家ゲストハウスは小値賀島に点在し、趣も周りの風景も異なっています。

それぞれの建物の歴史やたずまいを感じ、「暮らすように旅する」ことができるように1組1棟貸し切りの宿泊形態としています。

### 体験型観光の評価

民泊事業や体験プログラム事業の充実とツーリストの増加により、小値賀町は次第に注目されるようになってきました。「第4回JTB交流文化賞最優秀賞」(第1位)、「毎日新聞社2008グリーンツーリズム大賞(農水省&国交省関連 優秀賞)」(第2位)、「第4回日本エコツーリズム大賞特別賞」(第3位)、「オーライニッポン大賞グランプリ(内閣総理大臣賞)」(第1位)、「PTPAアメリカ国際親善大使プログラム 世界No.1表彰」(2年連続)など、NPO法人おちかアイランドツーリズム協会が全国規模の表彰を相次いで受賞しました。このような表彰もあり、マスコミへの登場も増えた結果、多大なコストをかけずにPRすることが可能となり、認知度と集客拡大の好循環も生まれています。

## 体験型観光の課題

今提供しているほとんどの体験プログラムが、恵まれた自然を活用した体験や歴史的建造物の観光など、表面的でテーマや物語づくりに未だ欠けていると思われまます。

原因として、フィールドとしている場所や建造物についての歴史や成り立ちに関する情報を持ったガイドがないことや体験プログラムを組み立てる際に、テーマや物語を意識していなかったことが挙げられます。

現在の体験プログラムは、他地域で



今後もし小値賀ならではのプログラムづくりが求められます。

も類似のものが提供されており、民泊について言えば、長崎県内はもとより九州各地でも実施されていて、その多くが小値賀町より利便性の高い地域となつていきます。

地理的条件が不利な小値賀町が、そういった中で魅力ある体験型観光地として生き残っていくためにやるべきことは多いと感じています。

## 小値賀観光のこれから

小値賀町には温泉やテーマパークは無く、あるのは四方を囲む海と緑あふれる島々とそこに暮らす住民の人情です。



「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産の一つである旧野首教会

この島を余すことなく体験してもらうために何が必要かを考えた時に「小値賀らしさ」は欠かせないと考えます。さらに言うと「これは小値賀でしかできない」「小値賀だから感動できる」ものを作っていく必要があると言えます。

また、さらに資産としての熟度を高め、再び世界遺産登録を目指すこととなった「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の登録推進事業を進めていくなかで、今後はこの小値賀観光の魅力を高めるためにも、「島である小値賀だから感動できる」体験型観光を作り上げていかなければと考えています。

## おわりに

小値賀町が持つ潜在的な魅力、恵まれた自然環境や歴史文化というものを目を向けて、それを大切にしたい社会環境の整備を図りながら、住民が自然と

西の果てから、日本に元気を届けていきます



の共生の中で、健康で満ち足りた生活を過ごすことが外部から訪れる人たちに魅力的に映る、そういう地域づくりを進めていきます。

また、「小さな島の大きな絆」で、小値賀ファンを増やし、雇用を創出することで地域を活性化し、将来にわたり本町が「小さくても輝く島」として、持続可能なまちづくりを展開していきたいと思えます。

小値賀町 総務課企画係

(平成27年6月1日付第292-1号)

日向椎葉湖(吉川英治氏命名)



宮崎県  
**椎葉村**  
しいばそん



**椎葉村の概要**

椎葉村は、宮崎県西北部九州山地のほぼ中央、熊本県との県境部に位置しています。面積は537.29km<sup>2</sup>を有し、その約96%は山林原野で占められ、国見岳、市房山など九州屈指の秀峰をはじめ、標高1,000mを超える山々が連なっており、地域の多くが九州中央山地国定公園に指定されています。

明治22年に下福良村、不土野村、大河内村、松尾村の4つの村が合併をして椎葉村は誕生し、平成26年度で「村制施行125周年」を迎えました。村内には、「ひんえつき節」をはじめ、数多くの民謡が伝承されており、また、26の集落に国の重要無形民俗文化財指定の神楽が保存されています。また、明治42年に柳田国男氏により本村の狩猟文化を著した「後狩詞記」が発表されたことから、日本民俗学発祥の地とも呼ばれています。

主な産業は農林業で、農業については、夏季冷涼な気候を生かして高冷地野菜や花きの生産が行われています。林業については、人工林が民有林の59%に達しており、豊富な資源が造成されてきたところです。また、村内全世帯への光ケーブル網を構築したことにより高速インターネット環境の提供を実現するとともに、地上デジタル放送・CS放送の無料提供や村内無料電話のサービスも提供しています。

「かてくり」の精神で取り組む、観光のむらづくり  
何度でも訪れてみたい観光地づくりへの挑戦

## 平家落人伝説と平家まつり

### ☆落人伝説

日本各地において、平家の落人伝説が伝承されていますが、椎葉村においては、古文書「椎葉山由来記」に次のように残されています。それによりまずと、およそ830年前、壇ノ浦の合戦に敗れた平家の残党は、道なき道を逃れ山深き椎葉の地へと落ち延びてま

います。それを伝え聞いた源頼朝よ

り、平家残党の追討の命を受けた「那須大八郎宗久」が椎葉の地で見たりは、かつての栄華もよそに、ひっそりと農耕に汗し暮らす平家一門の姿でした。「大八郎」はその姿を哀れに思い、幕府には追討を果たした旨を報告し、平家の守り神である厳島神社を建立したり農耕を教えるなど協力し合いながらこの地で暮らしました。このとき、平清盛の末裔といわれる「鶴富姫」と

います。

### ☆椎葉平家まつりの誕生

歴史ロマンに彩られた平家落人伝説を背景に、壇ノ浦の合戦から800周年にあたる昭和60年に「椎葉平家まつり」は始まりました。本村におけるこの頃の観光は、前述の「那須家住宅」や、国の天然記念物である「八村杉」あるいは、日本初のアーチ式ダム「上椎葉ダム」などを見るだけの限られたものでした。

平家まつり(大和絵巻き武者行列)



那須家住宅(国指定重要文化財)

「大八郎」は恋仲となり、姫は子どもを宿すことになりました。しかし、程なくして、大八郎に鎌倉への帰還命令が下されます。別れの際に大八郎は、「生まれた子が男子なら、わが下野の国へ、女子ならこの地で育てよ」と言い残し椎葉を後にします。

生まれたのは、女の子。その後、姫は慈しみ育てられ、那須の性を名乗るようになりまし

た。この悲恋の舞台となったのが、昭和31年に国指定重要文化財に指定されました「那須家住宅」、通称、鶴富屋敷と呼ばれており、現在はその末裔、第33当主ご家族がお住まいになられて

折しも日本国内は、まもなく訪れるバブル景気を前に、少しずつ景気の好転を感じられる時期でした。したがって、特別なものがなくとも、それなりに観光客は訪れていたにもかかわらず、そのような観光がいつまでも続くとも思えませんでした。

また、当時を振り返ってみると、村の人口は5,100人となり、過疎化に一段と拍車がかかっていました。このため、交流人口を少しでも増やし村の元気を取り戻したい、そのためには、新たな観光施策、誘客対策が何として

も必要という想いが、このまつりの誕生に深く影響したものと思います。

### ☆「かっこり」の精神とまつりへの取組み

椎葉平家まつりは、毎年11月の第2金・土・日の3日間開催しています。小さな山村の小さなイベントとしてスタートしたまつりは、いまや県内外から約2万人のお客様をお迎えする県内有数の催しものとなりました。

古代より受け継がれる焼き畑農法



しかしながら、小さな山村に大勢のお客様をお迎えすることから、行政だけでは限界があります。したがって、当初より村民への様々な場面での協力をお願いするとともに、村民総ぐるみで作り上げていく気運の醸成を目指してきました。

まつりの牽引役となる実行委員会は、住民の代表や出演団体の代表、運営をサポートする各種団体の代表など幅広い層から構成されており、毎年細部にわたる議論がおこなわれていきます。また、村の特産品抽選の応募券を兼ねたアンケート調査を毎年実施し、そこから見えてくる改善点等につきま



国指定天然記念物「八村杉」

しては、実行委員会で議論し、可能な限り改善を図っていく取り組みを重ねてきたところです。

本村には、先達より引き継がれてきた「かてり」という精神が根付いています。「かてり」とは、お互いを思いやり助け合う相互扶助(助け合い)の精神を意味します。

山深いこの地で生き抜くためには、住民同士の助け合い、行政と住民の協働が必要不可欠であり、自然に生まれ、今日に至るまで受け継がれてきたものであると思われま

す。また、この精神が受け継がれてきたからこそ、まつりイベントへの出演はもろろんのこと、裏方業務の最たるも

まつりは、鶴富姫の御霊をお慰める法楽祭が前夜祭として厳かに執り行われた後、土・日の両日、主要イベントである大和絵巻武者行列が盛大に催されます。行列は、はるか平安を思い起こさせる絢爛豪華な鶴富姫の平家方と勇壮な騎馬武者姿の源氏方を中心とする約200名で構成されており、お客様からも高い評価を頂いているところです。

また、お客様に幾度も気持ちよくお越しいただくためには、イベントの内容や構成はもろろん大事であります。それ以上に、お客様を「おもてなし」する心が重要であると思います。



体験ツアー参加者扮する平家方

のである駐車場スタッフなど、多くの村民の方々が支えるまつりとして認知され、平成20年「ふるさとイベント大賞奨励賞」の受賞につながったものと思います。

#### ☆平家まつり体験ツアー

まつり最大の見せ場となる大和絵巻武者行列には、平家方の姫と源氏方の従者に扮する多くの出演者が必要となります。この出演者の確保が実行委員会にとっては大きな悩みでした。また、新たな誘客対策も必要との議論もなされた結果、出演者確保と誘客対策をマッチングさせた体験ツアーの実施という新たな試みが生まれました。これは、平家方の姫に扮し行列に参加で

きるといふもので、新たな旅行商品として、例年キャンセル待ちが必要など好評を得ているところです。また、これとは別に参加者の一般公募も行っていますが、県内外から多くの応募を頂いており、ほとんどの参加者にご宿泊を頂いています。

### 何度でも訪れてみたい 観光地づくりを目指して

#### ☆第4次観光振興計画への取組み

本村では、平成26年度から平成35年度を目標とする第4次観光振興計画の具現化に取り組んでいます。本計画策定にあたっては、宿泊業や飲食業者はもちろんのこと、お客様に体験メニューを提供するインストラクター、あるいは観光ガイド、ひいては観光に直接関わっていない民間の方に委員に就いていただき、様々な角度からの議論をお願いしました。

その結果、国内における経済の成熟化や高齢化の進行により、現代社会では心の豊かさが求められていること、また、村が守り育ててきた自然、景観、継承してきた伝統文化、郷愁を感じさせる山村の暮らしが日本の原風景であり、脈々と受け継がれた「かて

り」の心は、お客様への癒しや心の豊かさを十分に提供できるものであることから、「椎葉の日常・暮らしを楽しむ」を基本理念に掲げ取り組んでいます。

#### ☆椎葉ファンクラブ

本村には、雄大な自然やそこに暮らす人々をこよなく愛するファンクラブがあります。通称、「しいば好き人」と呼んでいます。県内外から770名の方に登録頂いているところです。日頃から本村の魅力や特産品の情報などを全国に拡散頂くだけでなく、幾度も本村を訪れ村民との交流を楽しんでいます。また、会員の皆様から頂く意見や評価は、村内に居ては気づかない貴重なものが多く、大変有り難く思っています。

### 今後の課題

現在取り組んでいます観光振興計画の具現化に向けては、数多くの課題解決が必要であると思います。特に、本計画を先頭に立って進めていけるリーダーと組織は必要不可欠であると思います。このため、本計画を策定した委員の皆様には、計画の具現化を、見届

峠から望む雲海



けるプロジェクト実行委員として、今後10年間関与していただくことをしました。

しかしながら、「椎葉平家まつり」がそうであつたように、一部の住民だけではなく、村民総べるみでお客様をおもてなしする取組みが求められていると思います。そのためには、取り組みへの理解を頂くとともに、できるだけ多くの住民が活躍する場面を創造することが必要です。幸いに、本村には観光振興や地域づくりに取り組む多くの民間団体が生まれ、また、活躍の場を求めています。

観光産業は、非常に裾野の広い産業であり、付随する多様な相乗効果が生まれると考えています。

少子・高齢化という厳しい現実とも向き合っていかなければなりません。が、村民一体となって、何度でも訪れ

てみたい観光地づくり、その結果、住民が生き生きと暮らせる持続可能な暮らしづくりを進めていきたいと思えます。

椎葉村長 椎葉 晃充

(平成26年10月6日付第2895号)

イメージキャラクター「はえるん」とひまわり畑



沖縄県

# 南風原町

は え ば る ち ょ う



# やさしい観光地づくり推進事業 ICTを活用した観光振興へ

## 南風原町の概要

わがまち南風原町は、沖縄本島南部のほぼ中央に位置し、県都那覇市に隣接しています。周りを6つの市町村に囲まれ、面積は10・76km<sup>2</sup>。県内41市町村で4番目に小さな町です。琉球王国時代には、王府の直轄地として栄え、首里の南にある豊かな場所として、「南風原」といつ名前が付けられました。

現在の南風原町の境界は、明治41

(1908)年の特別町村制の施行により定まり、11の字からなる南風原村が形成されました。今次大戦で焦土と化した南風原村も、昭和21(1946)年に村役場の再編とともに復興の第一歩が始まり、畜産を中心とした農業、織物などの生産や地の利を発展の原動力に、工業や企業の進出により着実に発展を続けてきました。昭和55年(1980年)には16行政区をもって町政への移行を成し遂げ、以来田園都市をめざした諸施策が展開され、平成25年度現在では19行政区となっています。古くから交通の要所として、発展・独自の歴史、文化を育んできたわがまちは、更なる交通網の進展、大型店舗などの商業施設の進出で生活の利便性も向上し、平成28年には人口3万7千人を突破しました。

## 沖縄にわたっての観光とは

沖縄は、昭和50年の沖縄国際海洋博覧会を契機に観光地として定着し、リ

南風原町役場



「やさしい観光地づくり」の始まり(動機・経緯)

観光立県として観光振興を図り、観光誘客を目指している中、本町はまだ観光振興の面で十分でない現状にあります。その理由として、本町は、伝統工芸の琉球絣や各地域に残る芸能、祭りなどの観光資源が多くあるにもかかわらず、観光地としての環境や情報発信のための整備が整っていません。そのため、有名な観光名所や観光施設等へ素通りされてしまう状況にありました。

ゾートホテル業の開業やインフラ整備と共に観光客数が増加してきました。その後、バブル景気後の伸び悩みを経て、航空運賃の自由化や旅行商品の低価格化が進展したことにより、急激に観光客数が増加し、現在では観光客数600万人を超える人気のリゾート地となっております。

平成22年度における観光収入は、4,025億円となり、これは県外受取の17.7%を占めています。また平成24年度には、観光収入が4,418億円と増加しており、沖縄県にとって観光産業の振興は年々重要性が高まってきています。

そのため、観光客受け入れ体制の整備と観光資源の開発・発掘、同時に南風原の良さを発信するために、情報発信の強化の取り組みは重要な課題でした。平成21年度「観光の実態と志向」(日本観光協会)では、インターネットが宿泊観光旅行の際に多くの方(43.3%)が参考とされているとする全国的傾向からも、インターネットを活用した情報発信への取り組みに、力を入れていく必要があると考えました。

観光客の多くは、スマートフォン、タブレット端末もしくはパソコンを持参しており、旅先でのインターネット接続のニーズは高まっているため、観光情報を提供することにより滞在時間

が増大する考えました。滞在型観光を目指すため、南風原町の観光情報を常に発信し、ニーズに応えることにより、やさしい観光地づくりができるというところから、この事業は始まりました。

事業実施内容

事業実施内容は大きく分けて3つになります。1つめは、インターネットを活用して情報発信することにより、本町の良さをより知って頂き、観光客誘客を図る観光サイト。2つめは、訪れた観光客に無料の高速インターネット接続サービスや情報・コンテンツを提供する公衆Wi-Fiの整備。3つめは、本町の観光情報やスマートフォンを活用して楽しんで頂けるスマートフォン用観光アプリです。

平成24年11月に協議会を立ち上げ、協議会内部に専門部会をおきました。そこから2週間に1回のペースで専門部会を開き、ポータルサイト・アプリの構成やコンテンツ、それらをどのようにPRしていくかといったところから始まりました。第2回専門部会では、沖縄タイ



やさしい観光地づくり推進事業協議会



スマートフォン用観光アプリ

ムス紙面内の「かなさつちな〜むん」に観光PRを掲載することや有名プロガーの招致を行う事を決定して、第3回、4回では引き続き、ポータルサイト・アプリの内容や構成について検討しました。また同時に、公衆Wi-Fiの設置場所や向き、方向等を検討し、観光客が多い琉球絣会館と本町役場から、かすりロード付近と中央公民館や本町役場付近に対してアンテナを向け

ることを決定しました。

世界遺産などの観光資源や全国的に有名な観光地がない本町では観光客誘客という意識が薄く、以前はパンフレットやウェブサイト等もありませんでした。しかし、全国的に定着している津嘉山完熟かぼちゃや県内生産量トップを誇るストレリチア、ヘチマ(美瓜)、伝統工芸の琉球絣、花織など、PRすべき資源は少なくありません。それら町の魅力を発信するツールとして着目したのがスマートフォンです。

観光客が持つ携帯ヘダイレクトに情報を届け、かつ、訪れた人たちが楽しめるコンテンツを用意することで、情



ストレリチア

報を発信出来るものが未整備のところから、全国・世界にアピール出来る状態へ一気にステップアップしたいと考えました。

また、全国・世界に向けてPRするために、情報を発信するツールとして総合ポータルサイトを作成し、スマートフォン用アプリでは難しい細かい内容の観光情報、イベント情報を発信することで、今まで周知不足だった観光情報を、より多くの人たちへ届けられるようにしました。

更に、訪れた観光客にスマートフォン用アプリ・総合ポータルサイトなどをストレスなく活用して頂けるよう、



琉球絣

公衆Wi-Fi整備も行いました。

このように総合ポータルサイト・アプリで、全国・世界の方へ本町の情報を発信し、本町の良さを知って頂き、本町への誘客を図る。訪れた方には、公衆Wi-Fiサービスやアプリを活用して、本町を観光してもらえたらと思っております。

## 今後について

現在、公衆Wi-Fiは観光サービスにおいて活用していますが、将来的に行政サービスにも活用出来たらと考えております。災害復旧の際に現場に情報を伝えたり、ネット環境が整っていない高齢者・障がいのある方の住宅でもWi-Fiを活用することで見守りサービス等の福祉サービスにも使えるのではないかと検討しており、多様な分野への可能性を期待しています。

観光客は地元の人と関わることも楽しみを感じてくれて、繋がりが深まる。そのためには、観光客だけでなく、Wi-Fiやアプリを町民にも使ってもらわなければならない。スマホの普及率も、フェイスブック等のSNS利用率も本町はまだまだ低い現状です。観光サービスにしろ行政サービスで活用するにしろ、実効性を高めるには、整備

だけでなく、地域住民を巻き込んだ動きへ発展させるかが課題となってきました。そのために、これらのサービスと住民の意識とのマッチングを行っていく必要があると感じております。

実際の現場では、ポータルサイトやアプリを作ったから、見て貰い、本町を知って貰える。公衆Wi-Fiがあるから、来て貰えるという簡単な話ではありません。

それらを見る方が見やすいような、検索しやすいようなものにしていかなければ、見てさえも頂けないのだからとも思っております。逆に、インターネットや携帯が観光情報を知る上で主流となっている中、観光をしたいという方が、沖縄に行くから立ち寄ってみたい、こつこつ場所があるなら見たい、という風にして頂ける情報を常に発信していくことが出来なければ、観光に来て頂けないと考えております。整備を行っただけで終わるのではなく、そこからすべてが始まります。それらをどう活用出来るか、更に使いやすいように改良できるか。事業は平成26年度で終了しますが、この事業の成果はこれからの頑張りにつながっていると思っております。

南風原町長 城間 俊安

(平成26年4月21日付第2087号)